

大阪市緑の基本計画〈2026〉（素案） 作業検討部会での主な検討内容（報告資料）

1. 市民アンケートの分析
2. リーディングプロジェクト（素案）
3. みどりのまちづくり指標（素案）
4. 今後の街路樹・公園樹の維持管理について

0. 本日の報告内容

1. 市民アンケートの分析

- ① 課題認識（第12回審議会）
- ② 基礎分析
- ③ みどりとの関わり方に着目した分析
- ④ 不満の声に着目した要因分析
- ⑤ 分析のまとめ

2. リーディングプロジェクト（素案）

- ① 基本的な考え方
- ② 各プロジェクトの内容

3. みどりのまちづくり指標（素案）

- ① 現行計画で定めている指標
- ② 指標の全体像
- ③ 成果指標について
- ④ 達成指標について
- ⑤ 共有指標について

4. 今後の街路樹・公園樹の維持管理について

1. 市民アンケートの分析 ① 課題認識 (第12回審議会資料)

| まとめ | (上段：目標値、下段：調査結果) | | | |
|----------------|------------------|---------------|---------------|----------------|
| | H22.12 (基準値) | H27末 | H30末 | R7末 |
| ①身近な緑の満足度 | 46.5% | 約50% | — | 約60% |
| | | 約46.8% | 約42.8% | 約37.8%* |
| ②緑が増えたと感じる人の割合 | 28.1% | 約30% | — | 約33% |
| | | 約28.0% | 約15.0% | 約19.4%* |
| ③身近な公園の利用頻度 | 35.1% | 約40% | — | 約50% |
| | | 約34.0% | 約14.4% | 約21.1%* |

※令和5年度末調査結果

成果

- アンケート手法の変更以降（H30～）では、②と③で増加が見られ、開発に合わせた緑化や、公園活用を促進する取組（例：パークファン）などが、緑の実感や公園の利用頻度につながっている可能性が考えられる

課題

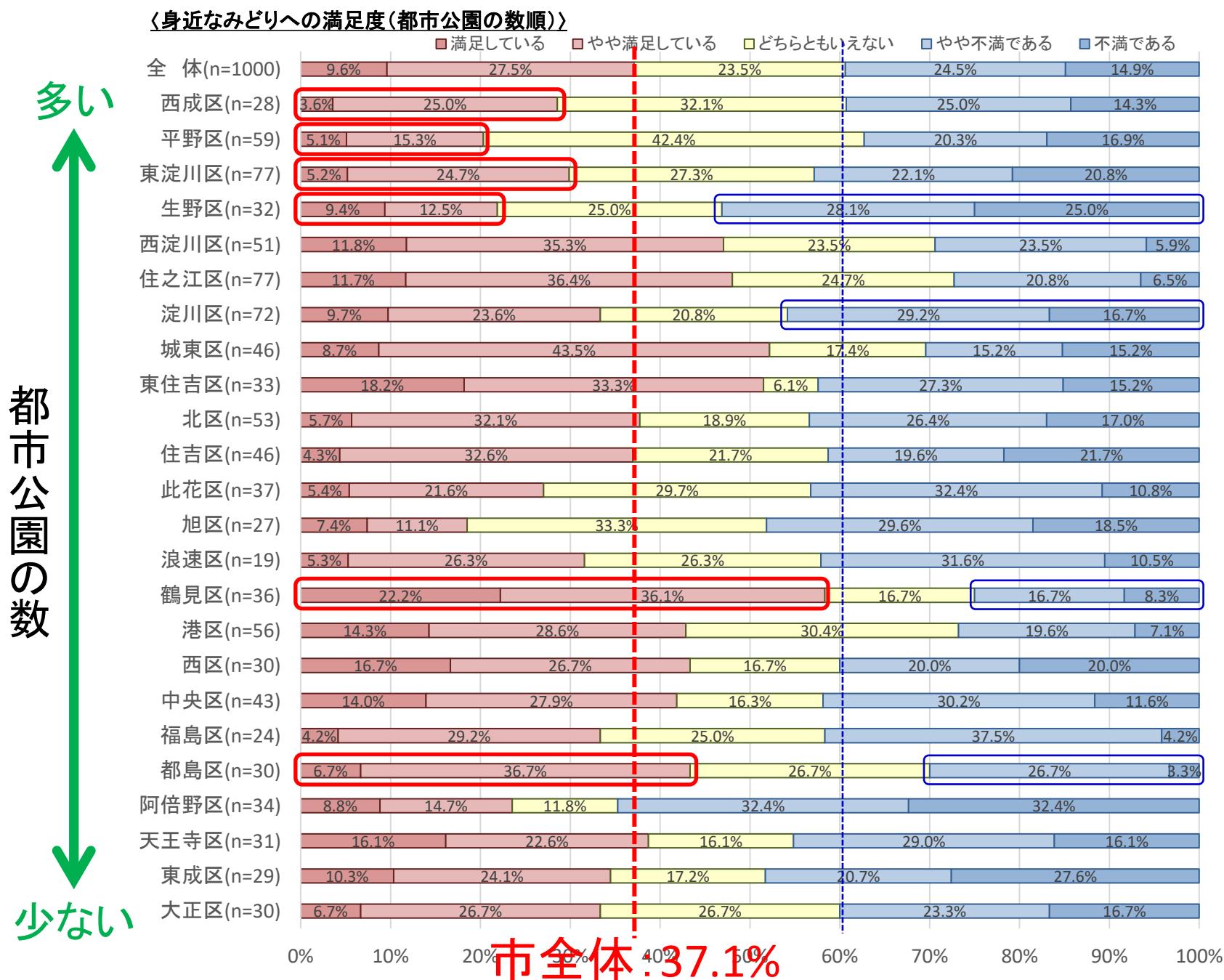
- いずれの項目もR7末の目標値を大きく下回り、特に①はアンケート手法の変更以降も低下傾向にあるため、身近な緑の満足度が低下している原因を分析する必要がある
- 原因分析を踏まえ、身近な緑（街路樹や身近な公園の樹木・施設など）を対象とした、満足度を高める取組が必要

- 各地域のみどりの量や回答者の年代との関係に着目した基礎分析を行う
- 他の設問（みどりへの関心度など）とのクロス集計により、身近な緑の満足度に影響する要因を分析する

1. 市民アンケートの分析 ② 基礎分析

身近な緑の満足度×都市公園数

- 都市公園の数と身近な緑の満足度との間には、はっきりとした関係性はみられない。
- ※都市公園の数が多くても、満足度は低い（西成区、平野区、東淀川区、生野区など）
- ※都市公園の数が少なくても、満足度は高い（鶴見区、都島区など）

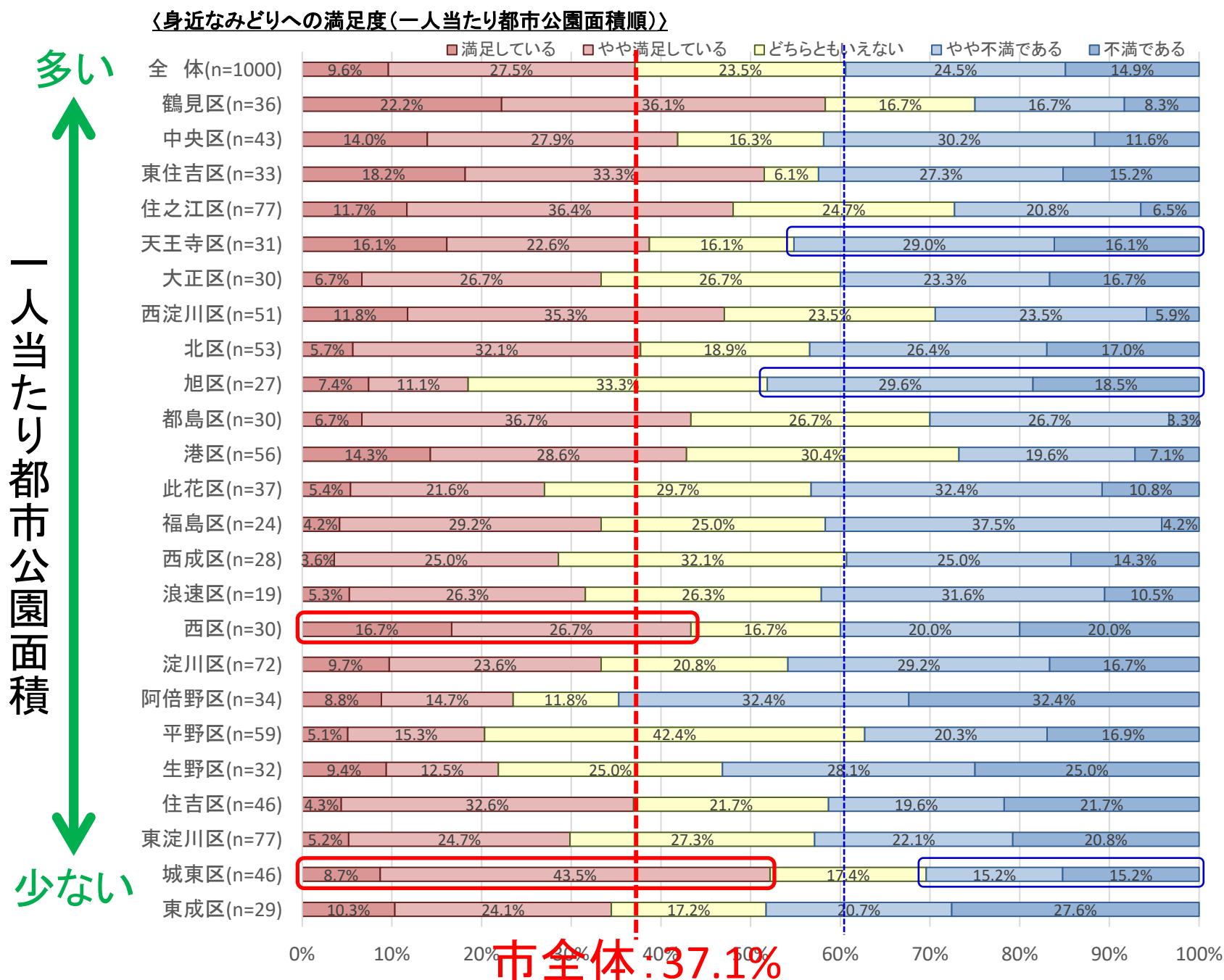


1. 市民アンケートの分析 ② 基礎分析

身近な緑の満足度×一人当たり都市公園面積

- 一人当たり都市公園面積と身近な緑の満足度との間にも、都市公園数と同様、はっきりとした関係性はみられない。

⇒都市公園の量的確保（公園数や面積）以外の要因が、市民の実感（緑に対する満足度の向上）に影響していると考えられる。



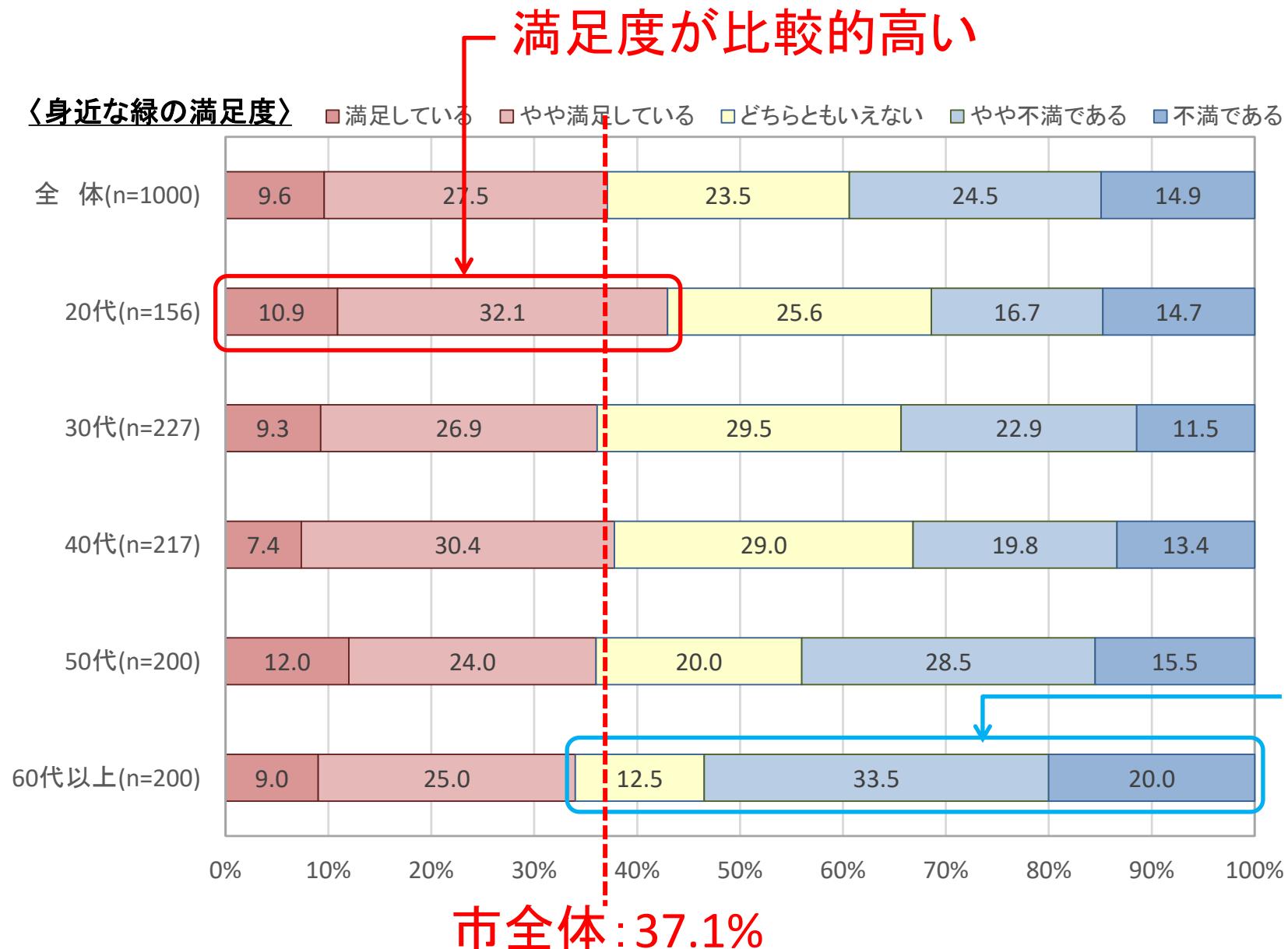
多い
↑
一人当たり都市公園面積
↓
少ない

1. 市民アンケートの分析 ② 基礎分析

身近な緑の満足度×年齢層

- ・ 20歳代で身近な緑の満足度が比較的高い。
- ・ 60歳代以上では、「どちらともいえない」が少なく、身近な緑に不満を持つ人も多い。

⇒年齢層により緑の満足度に違いがあることから、**日常生活の中でのみどりとの関わり方が、身近な緑の満足度に影響していると考えられる。**



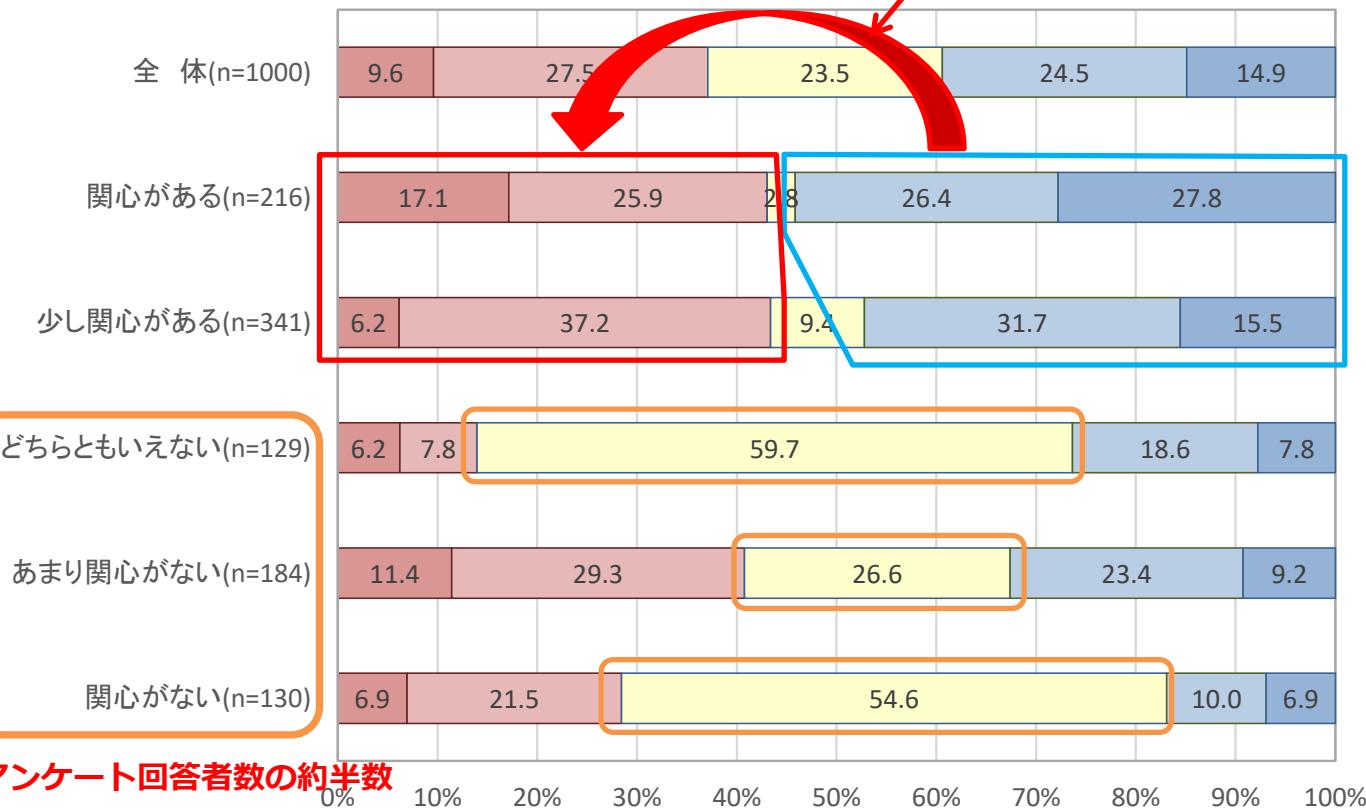
1. 市民アンケートの分析 ③ みどりとの関わり方に着目した分析

身近な緑の満足度×緑への関心

- ・ 緑に関心がない人よりも、緑に関心がある・少し関心がある人の方が、満足度が高い。
- ・ 一方で、関心がある人ほど、不満を感じている人も多い。
- ・ 緑に関心がない人は、満足でも不満でもなく、「どちらともいえない」人が多い。

⇒ **まずは緑に少しでも関心を持ってもらうことが、満足度の向上につながる**と考えられる。
そのうえで、不満を解消することで満足度の向上につながると考えられる。
(緑に対する不満については現在分析中、第13回審議会にて提示予定)。

〈身近な緑の満足度〉



② 不満を解消することで、満足度を向上できる可能性

① まずは、どちらともいえない、関心がない人に、関心をもってもらおう

※アンケート回答者数の約半数

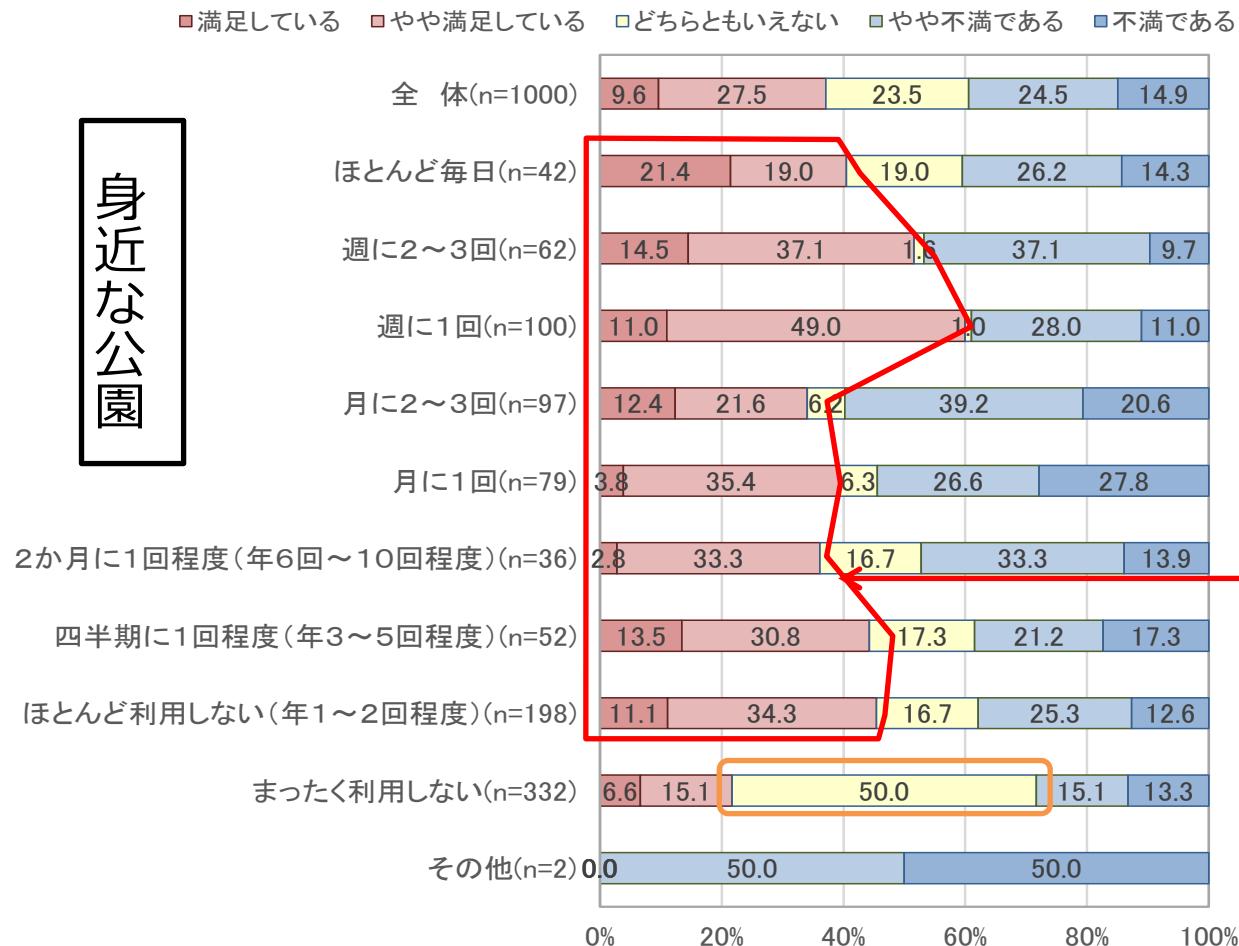
1. 市民アンケートの分析 ③ みどりとの関わり方に着目した分析

身近な緑の満足度×公園の利用頻度

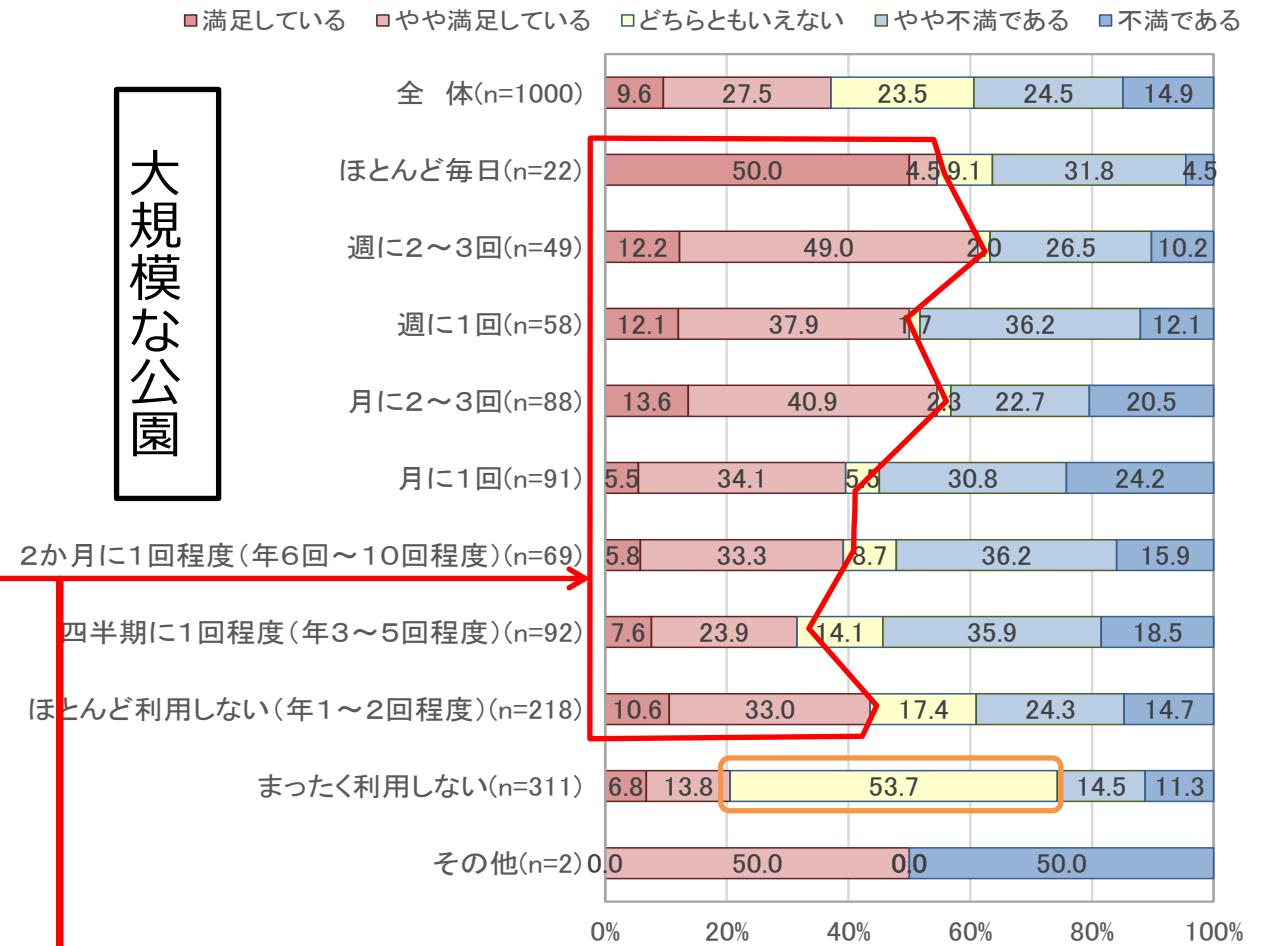
- ・ 身近な公園、大規模な公園ともに年に数回の利用があれば満足度が高い傾向。
- ・ 年に数回程度でも、5割程度は満足しているorやや満足していると回答。
- ・ 利用したことはない人は、どちらともいえないが5割程度で満足度は低い。

⇒ **身近な公園、大規模な公園いずれにおいても、公園を利用する機会を増やすことで身近な緑の満足度向上につながる。**
利用頻度は、高頻度ではなく年数回程度でも満足度を向上できる可能性がある。

〈身近な緑の満足度(身近な公園の利用頻度)〉



〈身近な緑の満足度(大規模な公園の利用頻度)〉



年に数回以上の利用があれば満足度が高い傾向

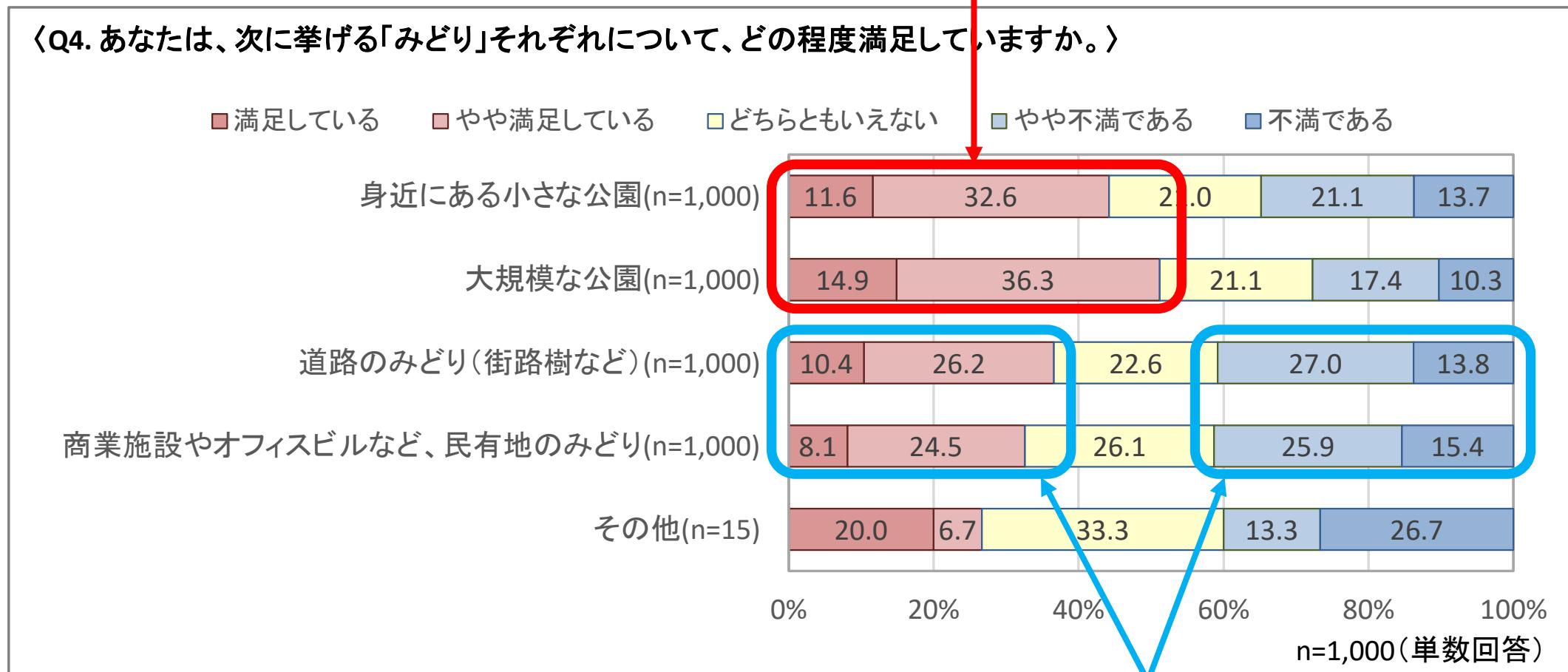
1. 市民アンケートの分析 ④不満の声に着目した要因分析

対象となる緑ごとの満足度

- ・公園に対しては4～5割程度の人が「満足」「やや満足」と回答。
- ・一方で、道路のみどり（街路樹など）や民有地のみどりについては「不満」「やや不満」と回答した人が多い。

⇒緑の種類によって満足度が異なっており、公園に対する満足度は比較的高い一方で、道路のみどり（街路樹など）や民有地のみどりに対する満足度は低い傾向。

公園に対する満足度は比較的高い傾向。



道路のみどりや民有地のみどりは満足度が比較的低く、不満と感じる人の割合が高い傾向。

1. 市民アンケートの分析 ④不満の声に着目した要因分析

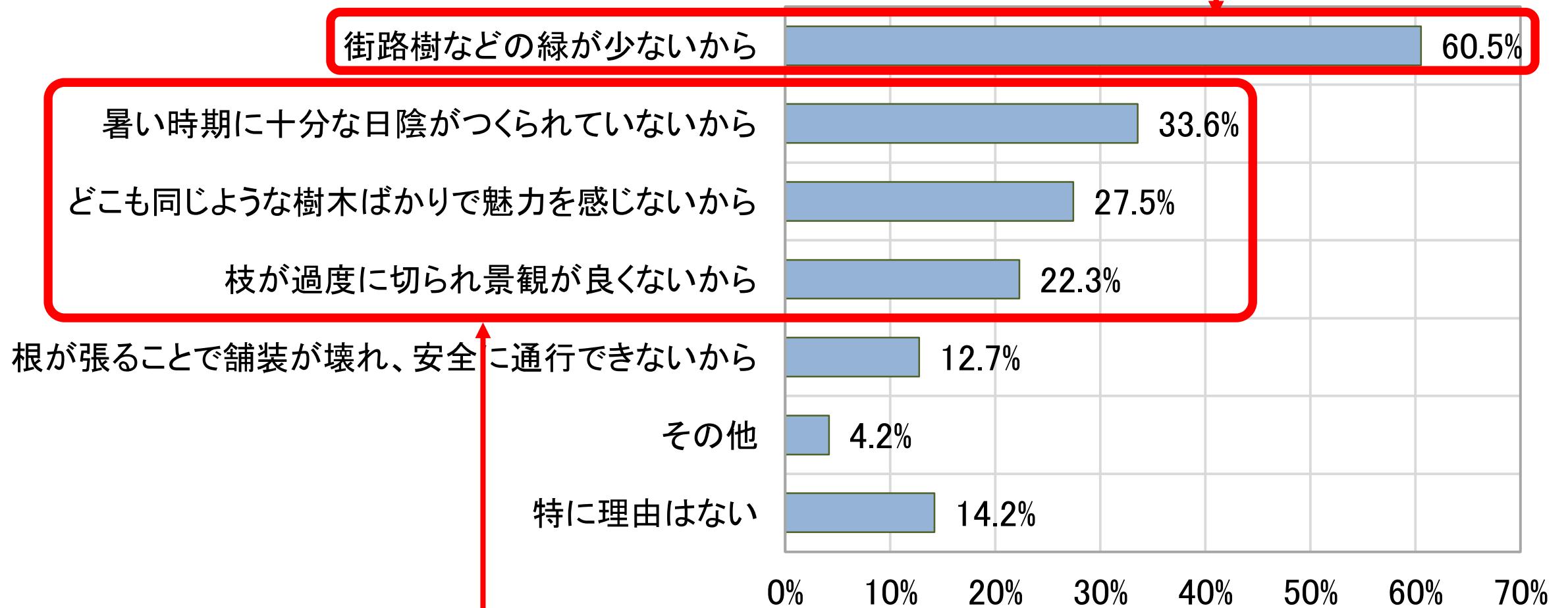
不満を感じる理由（道路のみどり（街路樹など））

- 「街路樹などの緑が少ないから」と回答した人が約60%で最も多く、続いて、十分な日陰がつかられていない、魅力を感じない、景観が良くないなどをそれぞれ2～3割程度の人を選択。

⇒豊かな緑を実感できるようにするとともに、緑陰の形成や景観形成など樹木が有する多様な機能を発揮させることが求められている。

緑の存在が実感されていない

Q6 Q4で「道路のみどり(街路樹など)」について「やや不満である」「不満である」とお答えいただいた方にお聞きします。「道路のみどり(街路樹など)」に対して不満を感じる理由は何ですか。



緑陰の形成、景観形成といった多様な機能が求められている

n=408(複数回答)

1. 市民アンケートの分析 ④不満の声に着目した要因分析

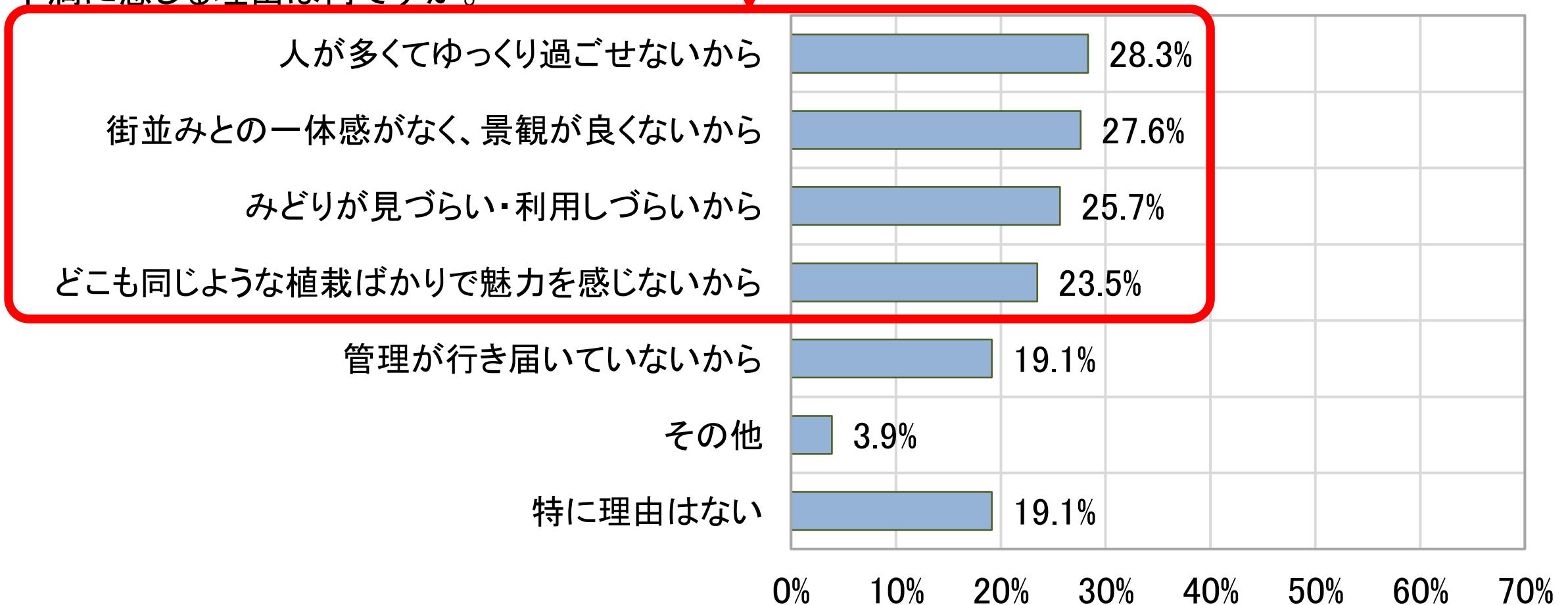
不満を感じる理由（民有地のみどり）

- ・人が多くてゆっくり過ごせない、景観が良くない、見づらい・利用しづらい、どこも同じような植栽で魅力を感じないなどについて、それぞれ2～3割程度の人を選択。

⇒利用のしやすさや良好な景観の維持、視認性の確保などが求められている。

景観や視認性、利用のしやすさに関する不満が多い。

Q12 Q4で「商業施設やオフィスビルなど、民有地のみどり」について「やや不満である」「不満である」とお答えいただいた方にお聞きします。「商業施設やオフィスビルなど、民有地のみどり」に対して不満を感じる理由は何ですか。



0. 本日の報告内容

1. 市民アンケートの分析

- ① 課題認識（第12回審議会）
- ② 基礎分析
- ③ みどりとの関わり方に着目した分析
- ④ 不満の声に着目した要因分析
- ⑤ 分析のまとめ

2. リーディングプロジェクト（素案）

- ① 基本的な考え方
- ② 各プロジェクトの内容

3. みどりのまちづくり指標（素案）

- ① 現行計画で定めている指標
- ② 指標の全体像
- ③ 成果指標について
- ④ 達成指標について
- ⑤ 共有指標について

4. 今後の街路樹・公園樹の維持管理について

2. リーディングプロジェクト（素案）

① 基本的な考え方

【リーディングプロジェクトとは（振り返り）】



- ✓ 行政の取組に加え、市民や民間事業者などが実践できる具体的なアクションを示すことで、みどりのまちづくりへの関わり方をわかりやすく伝え、取組への参画を促す
- ✓ ロードマップやアウトプット指標なども設定し、実現性を高める

2. リーディングプロジェクト（素案） ① 基本的な考え方

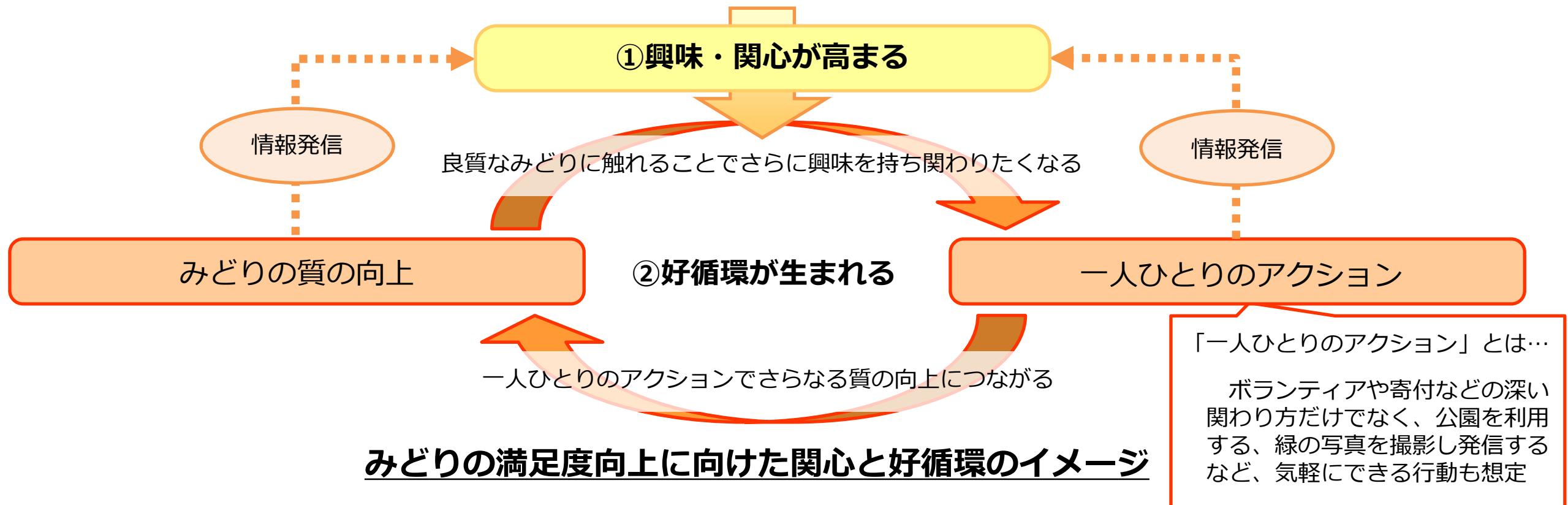
■ 基本理念（誰もが住みたい・働きたい・訪れたいと思う“みどりの都市”）の実現に向けては、みどりによって一人ひとりの都市生活が豊かになることが重要

■ 今後の10年間では、みどりに対する感じ方・関わり方の充実（満足度の向上）をめざす

① まずはみどりへの関心がない人たちに、みどりへの興味・関心を持ってもらう

② その上で、中長期的な視点に立って、みどりの満足度向上に向けた好循環（みどりの質の向上 & 一人ひとりのアクション）を生み出す

⇒ 満足度の向上、ひいては一人ひとりの都市生活の充実につながっていく



リーディングプロジェクトとして、「① みどりへの興味・関心を高める」と「② みどりの満足度向上に向けた好循環を生み出す」の2つのテーマを設定

2. リーディングプロジェクト（素案） ② 各プロジェクトの内容

① みどりへの興味・関心を高めるプロジェクト

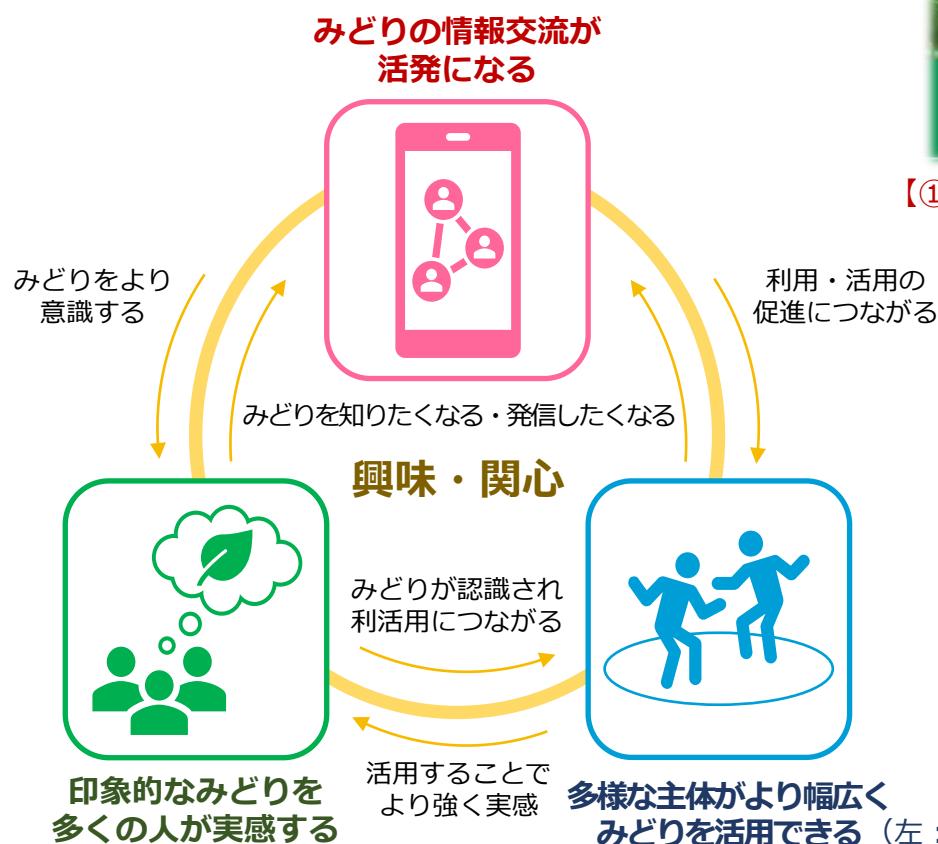
| 関連する基本方針 | 次期計画での到達点 | 取組の名称 | 取組の概要 | アウトプット指標（前期） |
|-----------|----------------------|---------------------------------|---|--------------------|
| 【方針①】育む | 印象的なみどりを多くの人が実感する | 【①-A】多くの人に認識される街路樹・公園樹の景観・快適性向上 | 都市魅力の創出に資するエリアにおいて、美しい樹形と豊かな緑陰を形成し、景観や快適性の向上を図る | 緑視率の増加 |
| | | 【①-B】開発に合わせた民有地緑化の推進 | 開発に合わせて多様なみどりを取り入れる取組を拡大・展開させ、印象的なみどりの創出・育成を図る | 優良緑化の増加 補助活用の増加 |
| 【方針②】活かす | 多様な主体がより幅広くみどりを活用できる | 【①-C】多様な主体によるみどり空間の幅広い活用 | 多様な主体による幅広い活用の取組を、より多くのみどり空間で根付かせることで、みどりに対する興味や愛着を高める | パークファンの全24区展開 |
| 【方針③】つながる | みどりの情報交流が活発となる | 【①-D】多様なツールを活用したみどりの情報共有・発信 | ポータルサイトやSNSなど、多様なツールを活用し、幅広い情報をわかりやすく共有・発信することで、みどりを知る・みどりに触れる機会を創出する | ポータルサイトへのアクセス数の増加 |



【①-A】美しい樹形による都市の景観向上のイメージ



【①-B】民有地緑化の事例（新ダイビル「堂島の杜」）
出典：社会・環境貢献緑地評価システム（SEGES）HP



【①-D】情報発信の事例（みどりの都市・大阪ONLINE）



【①-C】都市公園の幅広い活用イメージ
（左：パークファンによる活用、右：うめきた公園における活用）

2. リーディングプロジェクト（素案） ② 各プロジェクトの内容

② みどりの満足度向上に向けた好循環を生み出すプロジェクト

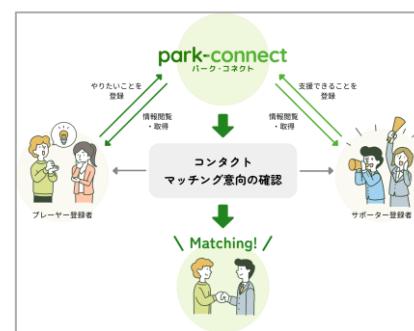
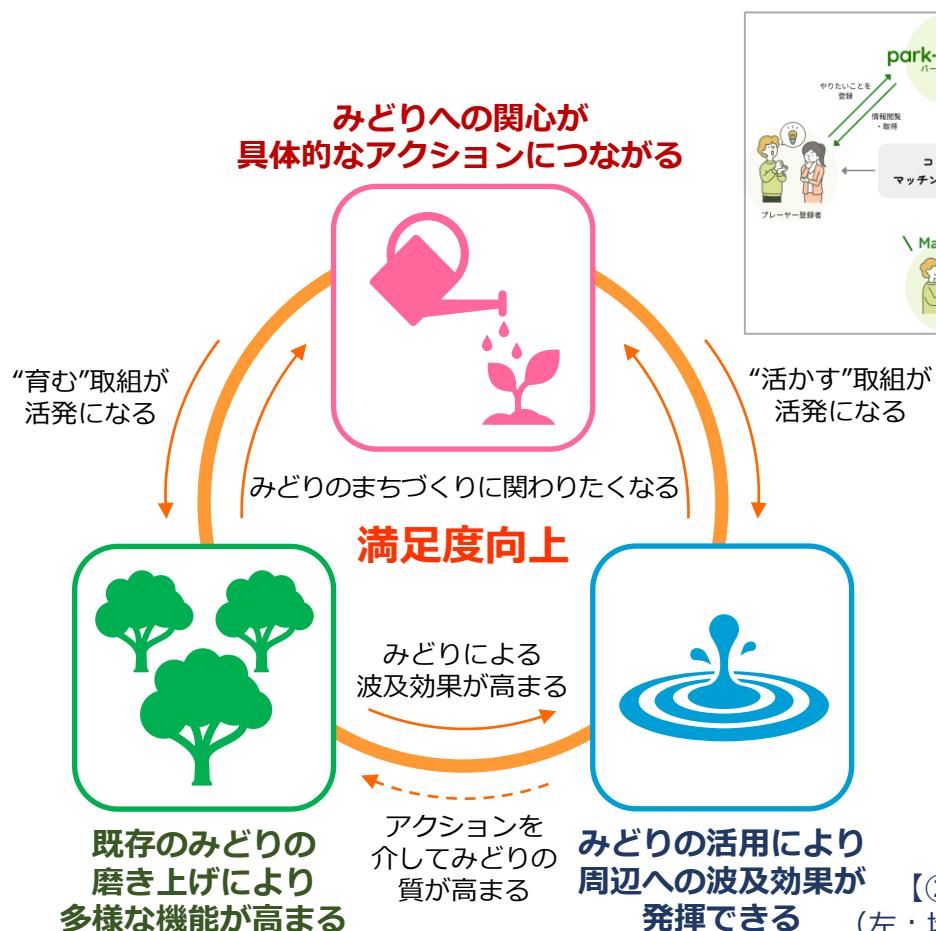
| 関連する基本方針 | 次期計画での到達点 | 取組の名称 | 取組の概要 | アウトプット指標（前期） |
|-----------|-------------------------|------------------------------------|---|----------------------|
| 【方針①】育む | 既存のみどりの磨き上げにより多様な機能が高まる | 【②-A】市内全域における街路樹・公園樹の計画的な保全育成 | 市内全域の街路樹・公園樹を対象に、健全で活力ある樹木の保全育成を推進する | 樹木樹林率（現状以上） |
| | | 【②-B】利用者の意見を反映した公園の魅力向上 | 利用者の意見を反映させた公園施設の導入や、機能分担の視点を踏まえた検討により、公園利用を促進 | 公園の利用者数滞在時間の増加 |
| 【方針②】活かす | みどりの活用により周辺への波及効果が発揮される | 【②-C】地域・エリアのステークホルダーによるみどり空間の活用・運営 | 地域・エリアのステークホルダーが主体的にみどり空間を活用・運営することで、地域の課題解決やエリアの価値向上といった波及効果を発揮させる | ステークホルダーによる活用・運営の増加 |
| 【方針③】つながる | みどりへの関心が具体的なアクションにつながる | 【②-D】みどりのまちづくりに参画・支援する取組の展開 | 様々な活動を支援できる仕組みを構築し、みどりのまちづくりに参画する入口を広げることで、多様な主体による参画・支援の輪を拡大させていく | みどりのまちづくりに対する寄付件数の増加 |



【②-A】目標樹形をめざした剪定管理のイメージ



【②-B】魅力ある公園施設のイメージ
（左：複合遊具、右：バケット型ブランコ）



【②-D】プレイヤーとサポーターのマッチングのイメージ（パーク・コネクト）



【②-C】ステークホルダーによる活用・運営のイメージ
（左：地域主体のイベント、右：うめきた2期のエリアマネジメント）

2. リーディングプロジェクト（素案） ② 各プロジェクトの内容

（参考）「市内全域における街路樹・公園樹の計画的な保全育成」の指標について

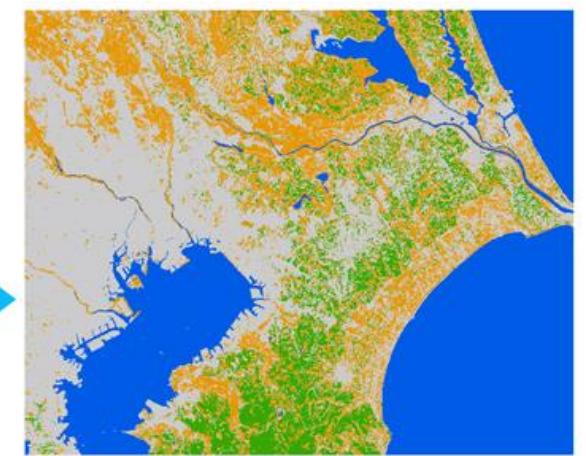
- ✓ 街路樹・公園樹については、更新に合わせた適正配置を進めながら、適正な頻度での剪定管理を行うことで、個々の樹木（高木）の樹冠を大きくし目標樹形を達成することをめざしている

- ✓ 一方で、衛星画像を用いた樹木樹林率は、市内全域における樹木・樹林の緑被量を大まかに把握することを目的とした指標であることから、上記の取組を評価する上では課題がある

- 樹木樹林率は、基本的には衛星画像のデータから樹木・樹林を機械的に判別・算定している
- そのため、測定誤差が生じるとともに、高木と中低木の区別などに課題がある
- また、樹木1本ごとの変化を捉えるための手法としては不向き



画像分類



■ 画像分類のイメージ（出典：ESRIジャパン株式会社HP）

- ✓ そのため、街路樹・公園樹の定期的な点検調査から、個々の樹木のデータを収集し、「1本当たり樹冠投影面積」の指標設定を前期に検討・試行することで、個々の樹木に対する事業効果の検証につなげていきたい

※ 街路樹・公園樹の全体量を網羅的に把握する目的で、樹木樹林率も継続的に調査する予定

0. 本日の報告内容

1. 市民アンケートの分析

- ① 課題認識（第12回審議会）
- ② 基礎分析
- ③ みどりとの関わり方に着目した分析
- ④ 不満の声に着目した要因分析
- ⑤ 分析のまとめ

2. リーディングプロジェクト（素案）

- ① 基本的な考え方
- ② 各プロジェクトの内容

3. みどりのまちづくり指標（素案）

- ① 現行計画で定めている指標
- ② 指標の全体像
- ③ 成果指標について
- ④ 達成指標について
- ⑤ 共有指標について

4. 今後の街路樹・公園樹の維持管理について

3. みどりのまちづくり指標（素案）

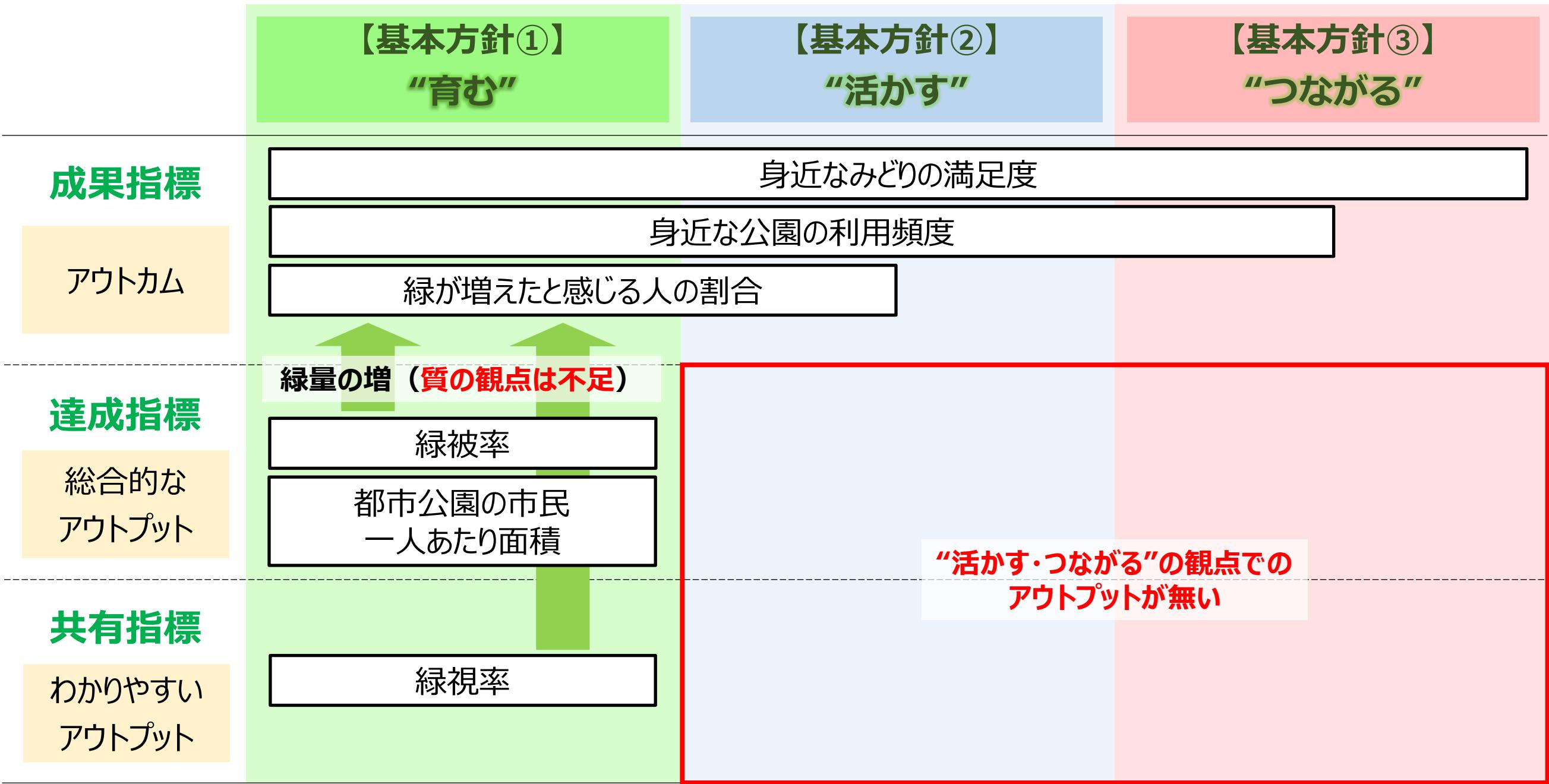
① 現行計画で定めている指標

| | | 基準値 | H27 末 | H37 末 |
|------|----------------|-----------------------------------|-------------------------|-----------------------|
| 成果指標 | 身近なみどりの満足度 | 46.5% (H22.12) | 約 50% | 約 60% |
| | 緑が増えたと感じる人の割合 | 28.1% (H22.12) | 約 30% | 約 33% |
| | 身近な公園の利用頻度 | 35.1% (H22.12) | 約 40% | 約 50% |
| 達成指標 | 緑被率 | 約 10.4% (H24) | 現状以上 | |
| | 都市公園の市民一人あたり面積 | 3.51 m ² /人 (H24 末) | 約 3.6 m ² /人 | 約 4 m ² /人 |
| 共有指標 | 緑視率 | うめきた | 31% | 3年ごとに測定し公表 |
| | | 大阪駅前 | 13% | |
| | | 淀屋橋 | 17% | |
| | | 大阪城公園駅前 | 26% | |
| | | 御堂筋① | 32% | |
| | | 御堂筋② | 36% | |
| | | 難波駅前 | 10% | |
| | | 阿倍野歩道橋 | 1% | |

- ✓ **成果指標**：みどりのまちづくりの成果としてめざす指標（＝最終的なアウトカム）
- ✓ **達成指標**：みどりのまちづくりの中で行政がめざす量的目標値となる指標
（＝市域全体を捉えた総合的なアウトプット）
- ✓ **共有指標**：みどりのまちづくりの進捗を把握する尺度として、緑化の意識啓発につなげるための指標（＝わかりやすいアウトプット） ※ 目標値は設定せず

3. みどりのまちづくり指標（素案）

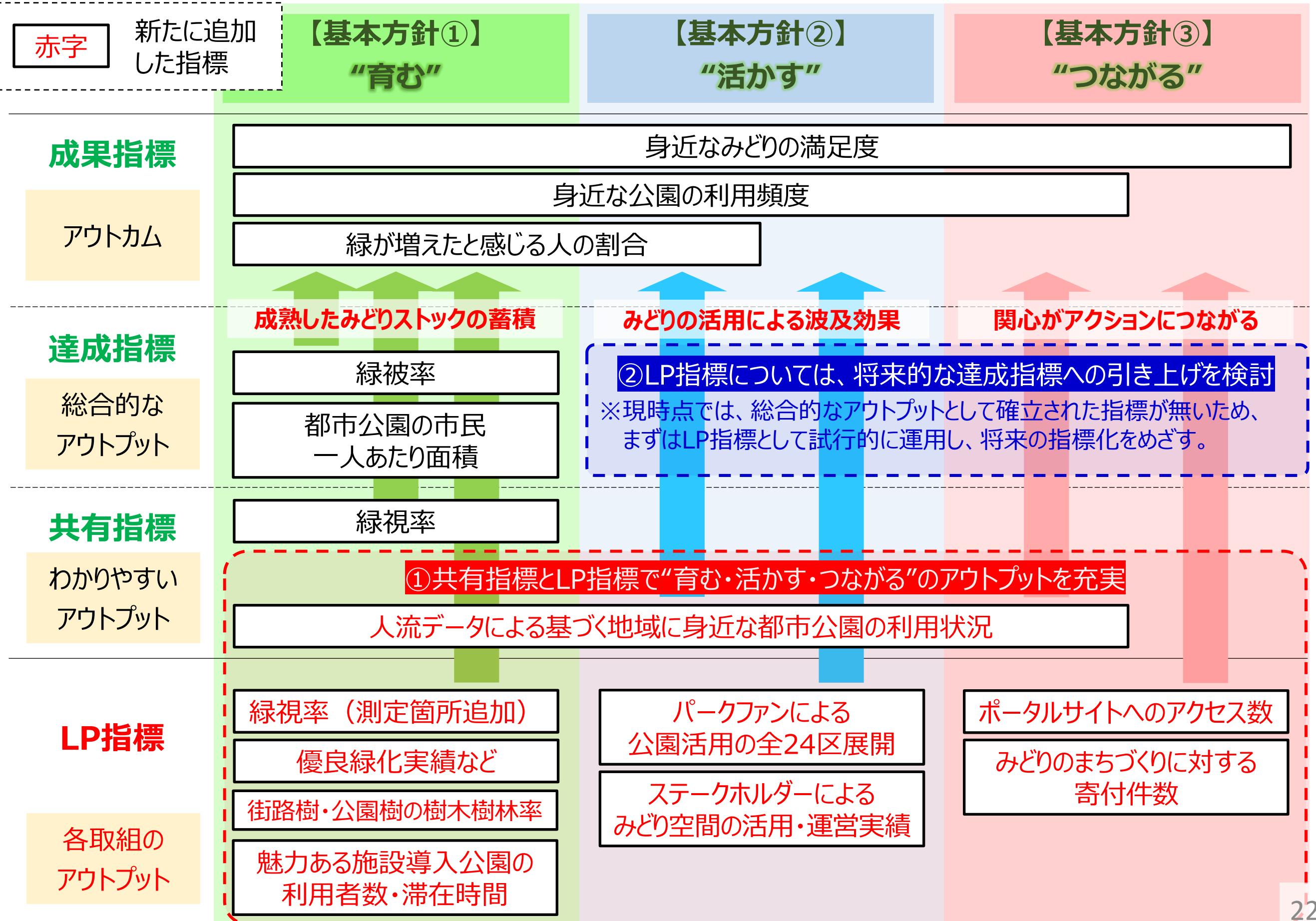
① 現行計画で定めている指標



【課題認識】

- ✓ 3つの基本方針の観点から指標を整理した場合、“活かす・つながる”の観点で、アウトカムにつながるアウトプットが無い状況
- ✓ また、“育む”の観点でのアウトプットはあるものの、緑の量に関する指標が中心であり、質の観点は不足している

3. みどりのまちづくり指標（素案） ② 指標の全体像



3. みどりのまちづくり指標（素案） ③ 成果指標について

【現行計画からの主な変更点】

- ✓ 既存の項目（①～③）については、直近の調査結果（令和6年度）を基準値として、**目標値（案）をそれぞれ検討**（考え方は24～27ページ以降に整理）
 - ※ 具体的な目標値については、令和6年度の市民アンケート結果を基準値として、改めて設定する
 - ※ 中間振り返り（令和12年度を想定）の時点で目標値を上回る場合は、上方修正も検討する
- ✓ 身近なみどりの満足度を高める上で重要と考えられる「みどりへの関心度」についても、**今後の経年変化を調査**する
 - ※ みどりへの関心度は、大阪市におけるみどりのまちづくりの取組状況だけでなく、国内外の社会情勢の変化なども影響しうるため、目標値は設定せず、成果指標の分析を補強する参考データとして取り扱う

| 次期計画での項目（案） | 基準値 (R6末) | 目標値（案） (R17末を想定) | (参考) 上昇率 |
|-------------------------------------|--------------|-------------------------|----------|
| ① 身近なみどりの満足度 | 37.1% | 約 50% (2人に1人) | 約1.3倍 |
| ② みどりが増えたと感じる人の割合 | 24.3% | 約 33% (3人に1人) | 約1.3倍 |
| ③ 身近な公園の利用頻度 (月に1回以上公園を利用する人の割合) | 38.0% | 約 45% | 約1.2倍 |
| ④ (参考) みどりへの関心度 | 55.7% | — | — |

3. みどりのまちづくり指標（素案）

③ 成果指標について

【目標値の考え方】

- ✓ ①身近なみどりの満足度については、他都市の実績値・目標値も踏まえ、まずは同水準にまで引き上げることをめざし、**約50%（2人に1人）**を目標値として設定する想定

| 次期計画での項目（案） | 基準値 （R6末） | 目標値（案） （R17末を想定） | （参考）上昇率 |
|-------------|--------------|------------------------|---------|
| ①身近なみどりの満足度 | 37.1% | 約50% （2人に1人） | 約1.3倍 |

（参考）他都市における実績値 ※ 政令指定都市のうち、類似の手法・設問で調査している事例

| 市名 | 実績値 満足 + やや満足 | 項目 |
|------|------------------|--------------------------------------|
| 横浜市 | 54.4%(2023) | 横浜市の緑の環境について、あなたはどの程度満足していますか（5段階） |
| 川崎市 | 42.2%(2020) | 市民の緑の満足度 |
| 名古屋市 | 49.3%(2018) | あなたは、お住まいの近くの「緑」について満足していますか（5段階） |
| 堺市 | 48.0%(2021) | 堺市は樹木などのまちの緑の豊かさ（多さ）に満足できるまちだと思いますか。 |

3. みどりのまちづくり指標（素案） ③ 成果指標について

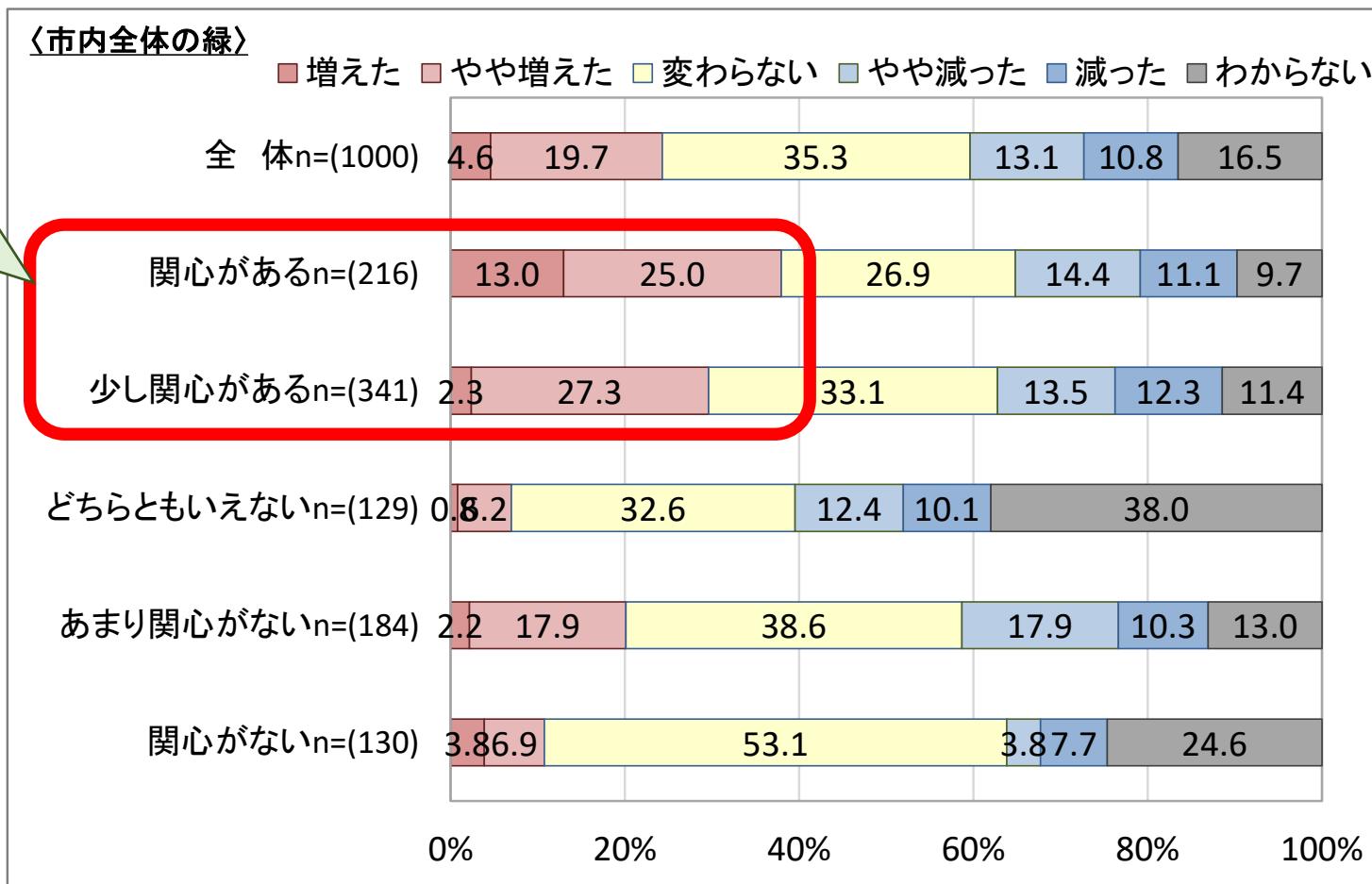
【目標値の考え方】

✓ ②みどりが増えたと感じる人の割合については、みどりへの関心度が高い層の回答傾向も踏まえ、**約33%（3人に1人）**を目標値として設定する想定

| 次期計画での項目（案） （令和6年度を基準値として仮置き） | 基準値 （R6末） | 目標値（案） （R17末を想定） | （参考）上昇率 |
|----------------------------------|--------------|------------------------|---------|
| ②みどりが増えたと感じる人の割合 | 24.3% | 約33% （3人に1人） | 約1.3倍 |

（参考）みどりが増えたと感じる人の割合 × みどりへの関心度

みどりへの関心度が高いグループでは、みどりが増えたと感じる人の割合が約30～40%（3人に1人程度）
⇒ みどりを創出する取組に加え、みどりへの関心度を高める取組を行うことで、約33%をめざす



3. みどりのまちづくり指標（素案）

③ 成果指標について

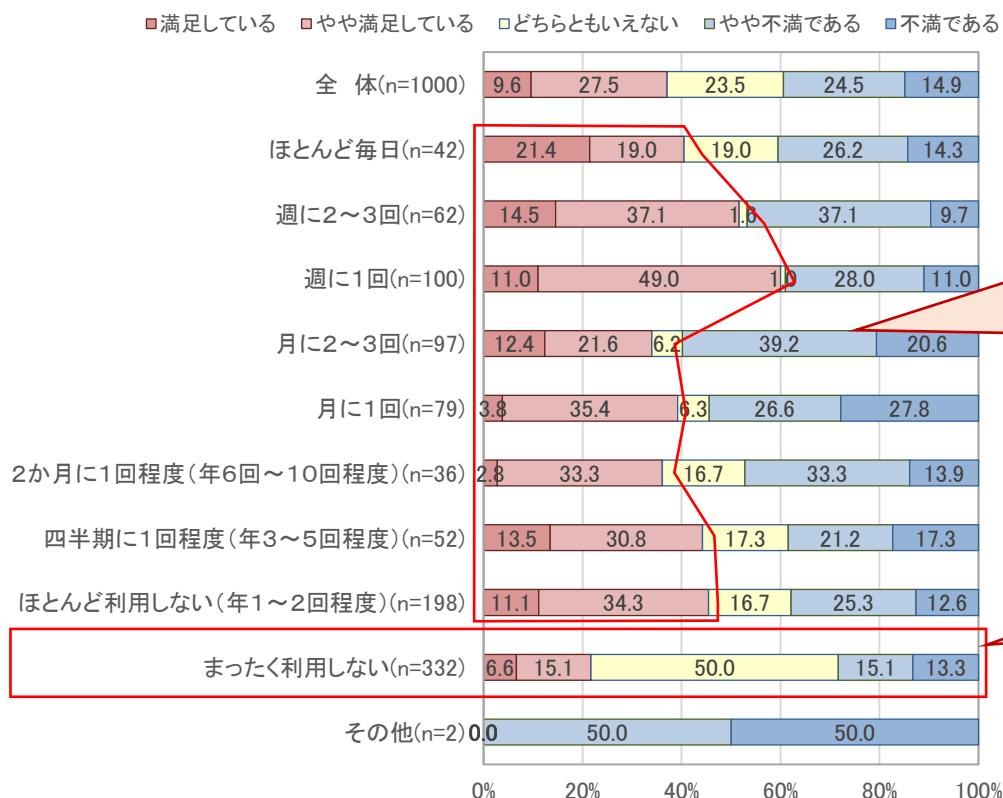
【指標の定義】

- ✓ ③身近な公園の利用頻度については、これまで「週に1回以上公園を利用する人の割合」を指標としていたが、利用頻度の低い層に少しでも公園を利用していただき、みどりの満足度向上につなげていくために、「月に1回以上公園を利用する人の割合」に変更する

| 次期計画での項目（案） （令和6年度を基準値として仮置き） | 基準値 （R6末） | 目標値（案） （R17末を想定） | （参考）上昇率 |
|------------------------------------|--------------|---------------------|---------|
| ③身近な公園の利用頻度 （月に1回以上公園を利用する人の割合） | 38.0% | 約45% | 約1.2倍 |

（参考）身近な緑の満足度 × 身近な公園の利用頻度（令和6年度）

〈身近な緑の満足度(身近な公園の利用頻度)〉



年に数回以上公園を利用する層は、身近な緑の満足度が比較的高い
⇒ 利用したことがない層に少しでも公園を利用していただく必要がある

まったく利用しない層が全体の約3割を占めている
(332/1,000)

3. みどりのまちづくり指標（素案）

③ 成果指標について

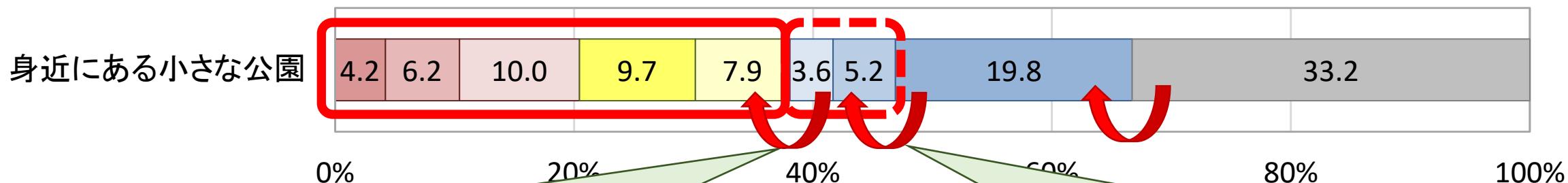
【目標値の考え方】

✓ 目標値については、利用頻度の低い層を段階的に引き上げていくことをめざし、**約45%**を目標値として設定する想定

| 次期計画での項目（案） （令和6年度を基準値として仮置き） | 基準値 （R6末） | 目標値（案） （R17末を想定） | （参考）上昇率 |
|------------------------------------|--------------|---------------------|---------|
| ③身近な公園の利用頻度 （月に1回以上公園を利用する人の割合） | 38.0% | 約45% | 約1.2倍 |

（参考）身近な公園の利用頻度（令和5年度）

- ほとんど毎日
- 週に1回
- 月に1回
- 四半期に1回程度（年3～5回程度）
- まったく利用しない
- 週に2～3回
- 月に2～3回
- 2か月に1回程度（年6回～10回程度）
- ほとんど利用しない（年1～2回程度）



現在、年に数回公園を利用する層が、月に1回以上利用することをめざし、約45%を目標値とする

利用頻度がさらに低い層についても、まずは一つ上の区分をめざして利用促進を図る

【現行計画からの主な変更点】

- ✓ ①緑被率については、令和6年度の大阪府調査結果（10.7%）を基準値として設定し、**現状以上を目標値とする**（考え方は29ページに整理）
- ✓ ②都市公園の市民一人あたり面積については、現状以上のスピードでの都市公園整備をめざすこととし、**目標値を約3.7m²/人【総面積：約990ha】として設定する**

| 次期計画での項目（案） | 基準値 | 目標値（案） （R17末を想定） |
|-------------------------------|---|-------------------------------|
| ①緑被率 | 10.7% （R6大阪府調査結果） | 現状以上 |
| ②都市公園の市民一人あたり面積※ （【】内は総面積） | 約3.5m ² /人【約968ha】 （R6末推計値） | 約3.7m ² /人【約990ha】 |

※ 人口は「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」（国立社会保障・人口問題研究所）を基に試算

（参考）都市公園整備のスピード

H26末～R6末（10年間）の実績値：約1.8ha/年

R7末～R17末（10年間）の目標値：約2.2ha/年

【目標値の考え方】

- ✓（前提①）緑被率の数値は、調査の手法（使用する衛星画像など）や時期（季節）に影響を受けるものであり、手法・時期を統一した場合も、その年の気候（季節の進み具合）などにより数値は変動しうる
- ✓（前提②）大阪市（約225km²）で緑被率を0.1%高めるためには、22.5haの緑の創出が必要
- ✓これらの前提を踏まえつつ、(1) 既存の街路樹・公園樹、(2) 新たな都市公園の整備、(3) 民間緑地のそれぞれで、どの程度の増減が今後見込まれるか整理し、数値目標の設定が可能か検討

① 既存の街路樹・公園樹

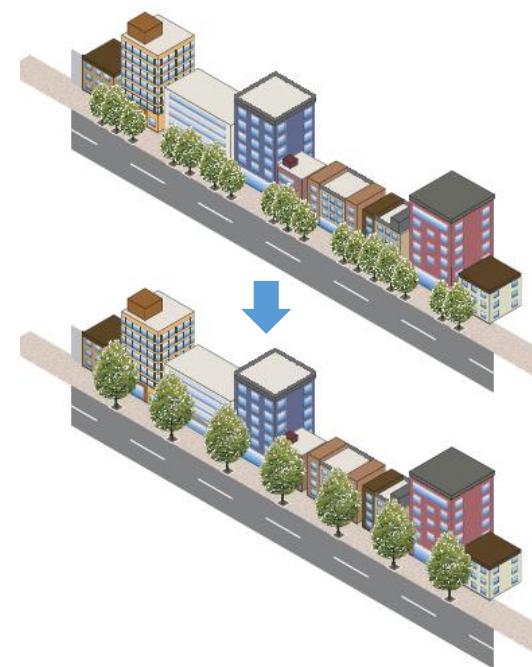
…適正配置と剪定管理を行うことで、全体としての緑被面積は概ね維持させながら、1本あたりの樹冠投影面積を増加
(緑被率の観点では大きな増減は無いと見込まれる)

② 新たな都市公園の整備

…次期計画期間では約22haの整備を目標としているが、本市の標準的な都市公園における緑被率は約50%であることから、緑被面積は約11haの増加が見込まれる（約0.05%相当）

③ 民間緑地

…認定・表彰・補助制度の活用や容積率緩和をインセンティブとした緑化誘導を今後検討していくが、基本的には条例等に定める緑化率に基づいて緑化が行われると想定される
…そのため、緑化率の改定を行わない限り、緑被の増加を定量的に推計することは困難



■ 適正配置（適正な植栽間隔）のイメージ

→ 調査手法や時期、気候などによる数値の変動があり、数値目標を設定する元々難しい指標であること
0.1%以上の緑被率上昇を見込むことが困難であること を踏まえ、**目標値は「現状以上」とする**

3. みどりのまちづくり指標（素案） ⑤ 共有指標について

【現行計画からの主な変更点】

- ✓ ①緑視率については、緑化重点地区などを対象に、**測定箇所を追加**する
- ✓ また、緑そのものだけでなく、人とみどりの関わり方についても、わかりやすい尺度で変化を捉え共有する必要があるため、**人流データに基づく「②地域に身近な都市公園の利用状況」を新たに追加**する

【①緑視率】

| 継続/追加 | 測定場所 | 備考 |
|--------------|------------------|--------|
| 継続 | うめきた1期 | 緑化重点地区 |
| | 大阪駅前 | |
| | 淀屋橋 | |
| | 大阪城公園駅前 | |
| | 御堂筋① | |
| | 御堂筋② | |
| | 難波駅前 | |
| | 阿倍野歩道橋 | |
| 追加 | うめきた2期 | |
| | 大阪駅南 | |
| | 新大阪駅前 | |
| | 大阪城東部 | |
| | 夢洲 | |
| (参考) 街路樹・公園樹 | LPのアウトプット指標として設定 | |

【②地域に身近な都市公園の利用状況】

| 公園種別 | 推計平均利用者数 (1日あたり) | | 推計平均 滞在時間 (利用者あたり) ※ 通過者を除く |
|------|---------------------|------------|--------------------------------------|
| | 総数 | 1公園 あたり | |
| 地区公園 | 8,422 | 312 | 19分 |
| 近隣公園 | 10,483 | 138 | 22分 |

※令和4年度調査結果

※推計利用者数は、スマートフォンの所持者を対象としており、スマートフォンを所持していない利用者（未就学児など）の情報は反映されないことから、実際の利用者数よりも過少となる傾向にある

※いずれのデータを指標として活用するかは検討が必要

0. 本日の報告内容

1. 市民アンケートの分析

- ① 課題認識（第12回審議会）
- ② 基礎分析
- ③ みどりとの関わり方に着目した分析
- ④ 不満の声に着目した要因分析
- ⑤ 分析のまとめ

2. リーディングプロジェクト（素案）

- ① 基本的な考え方
- ② 各プロジェクトの内容

3. みどりのまちづくり指標（素案）

- ① 現行計画で定めている指標
- ② 指標の全体像
- ③ 成果指標について
- ④ 達成指標について
- ⑤ 共有指標について

4. 今後の街路樹・公園樹の維持管理について

4. 今後の街路樹・公園樹の維持管理について

1 検討経過

第12回審議会でのご意見

今後の樹木管理の方針については、緑の基本計画の根幹の部分かと思うので、**審議会（部会）でも、議論いただけるよう検討いただきたい**

作業検討部会での主なご意見とその対応

第3回～第6回部会での主なご意見

意見に対する対応

- 樹木管理において、昔の早期緑化時代には当てはまったことが、今現代では当てはまらないということを、市民にも理解頂けるよう、時代背景とともに整理が必要。

時代背景を踏まえ
課題を再整理

- 地球温暖化、ウェルビーイング、人間中心のパブリックスペースの話が、ここ10～20年で大きく動いている
- こうした中で、**樹木の緑陰形成が重要**であることを示した上で、緑陰形成のため、樹木を適正なところまで大きく育てる必要があると整理すべき

緑陰の形成を
キーワードで追記

- 街路樹などは植栽空間に制約があり限界があるので、目標樹形に加え、目標樹高を明記するなどして、樹木を適正な大きさに育成していくことを分かりやすくすべき

目標樹高を
キーワードで追記

- 樹木は生き物であり、やってみないとわからない不確実性をもつため、順応的管理の考え方を組み込むべき

PDCAによる
維持管理の項目で
順応的管理を追記

今後の樹木管理の方針を整理

2 これからの樹木管理の方向性

これまでの方向性

- ・量の拡大 ⇒早期緑化、都市環境の改善
⇒都市景観に配慮した緑化
- ・緑化の質の多様化 ⇒緑だけでなく、花による潤いのあるまちなみ

現況

- ・一定のストックを形成
- ・市域全域に緑のネットワーク、御堂筋など本市のまちのブランド形成にも一定寄与

課題

- ・時間が経過し限られた空間の中での樹木の成長、景観の悪化などが顕在化する中で、樹木にとって、植栽空間は限られ、厳しい環境となってきた。
- ・事故リスク等の増大を踏まえ、公園樹・街路樹の安全対策事業を実施

これからの方向性

- 「量の拡大」から「質の向上」へ転換
- 安全性を確保しながら、「質の向上」に向けた健全な育成（ベースアップ）
- 都市魅力の向上やくらしを豊かにする（グレードアップ）

3 今後の街路樹・公園樹の維持管理の基本的な考え方（素案）

街路樹・公園樹

都市の景観・快適性向上や環境保全に貢献するなど、都市の価値を高め、市民生活を支える重要な都市インフラ

基本的な方向性（あり方）

- 都市インフラとして健全な樹木の保全育成を目指す
- 定期的な点検による蓄積したデータに基づきながら、計画的に適時適切な剪定を実施するなど、樹木管理のDXを強力に進めながら、計画的な維持管理に転換していく
- 市民・事業者等と情報共有しながら連携するなど、樹木を共に育てるしくみづくりに取り組む

樹木の管理目標

市民生活を支える都市インフラとして安全性を確保しつつ、

樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮できるよう、

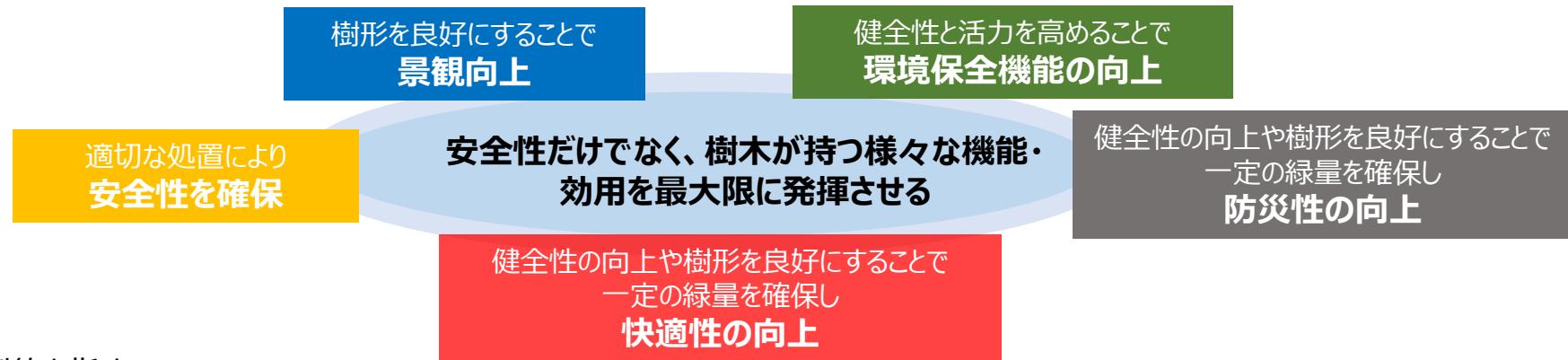
道路、公園などの植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成

3 今後の街路樹・公園樹の維持管理の基本的な考え方（素案）

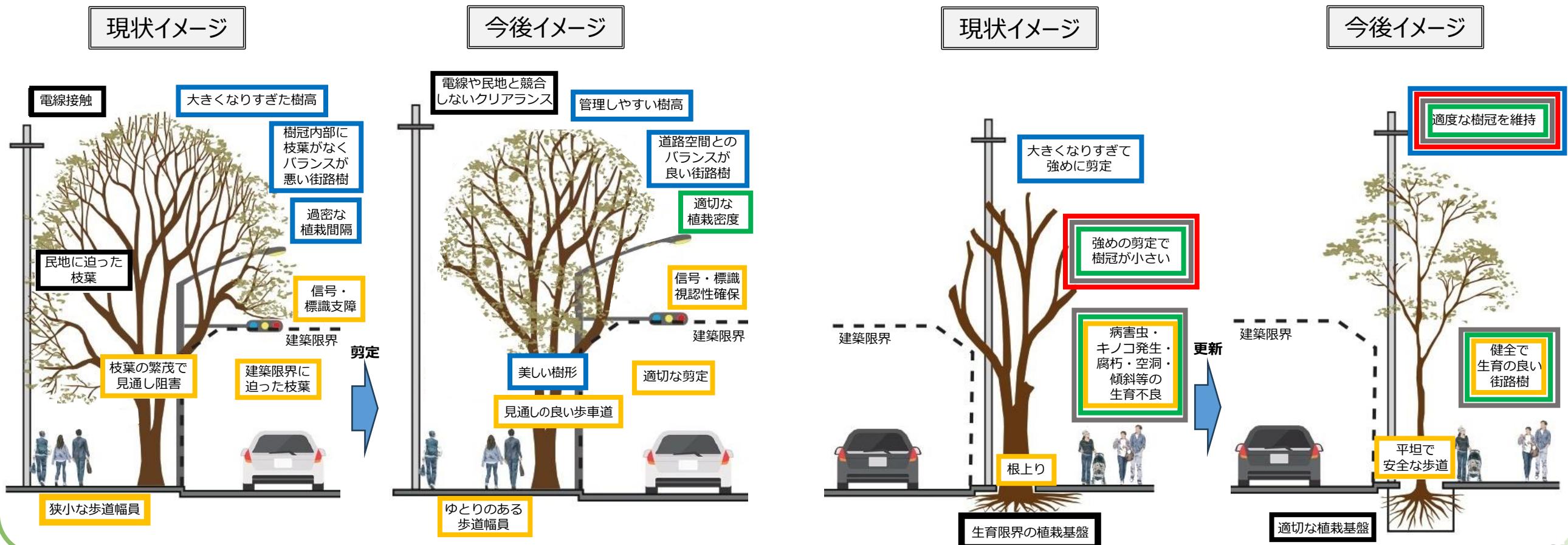
樹木の管理目標 <街路樹>

市民生活を支える都市インフラとして**安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮**できるように、**道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成**

安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮とは？



□ は管理上の空間的制約を指す

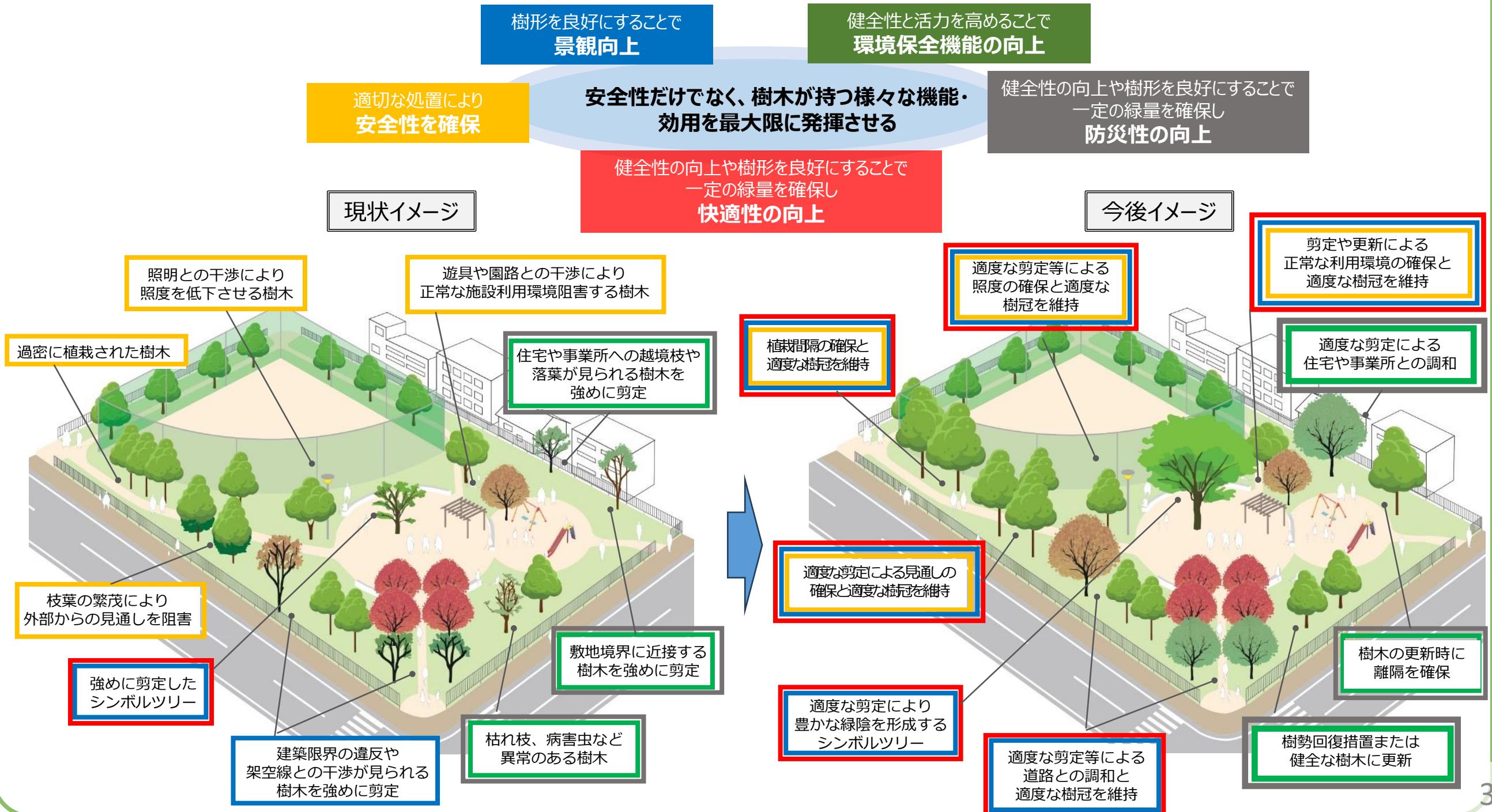


3 今後の街路樹・公園樹の維持管理の基本的な考え方（素案）

樹木の管理目標 <公園樹>

市民生活を支える都市インフラとして**安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮**できるよう、道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成

安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮とは？



3 今後の街路樹・公園樹の維持管理の基本的な考え方（素案）

樹木の管理目標 <街路樹>

市民生活を支える都市インフラとして安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮できるように、**道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成**

① 樹木の植栽 植栽環境に応じた、適正な樹木の配置や樹種の選定！

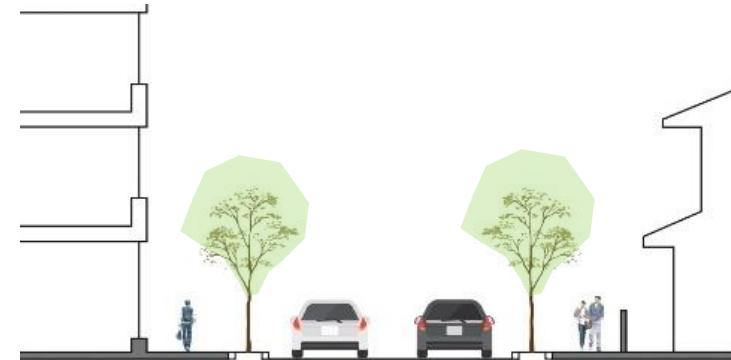
空間的にゆとりのある広い場所でのケース

空間に適した大きさになる樹木を植栽



空間的にゆとりのない狭い場所でのケース

空間に適した大きさになる樹木を植栽



② 樹木の剪定 植栽環境に応じた、計画的な剪定の実施！

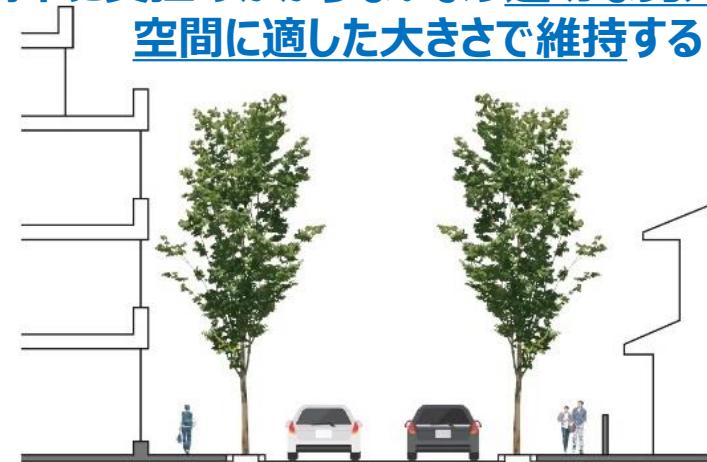
空間的にゆとりのある広い場所でのケース

樹木に負担のかからないよう適切な剪定頻度で
空間に適した大きさに維持する



空間的にゆとりのない狭い場所でのケース

樹木に負担のかからないよう適切な剪定頻度で
空間に適した大きさに維持する



3 今後の街路樹・公園樹の維持管理の基本的な考え方（素案）

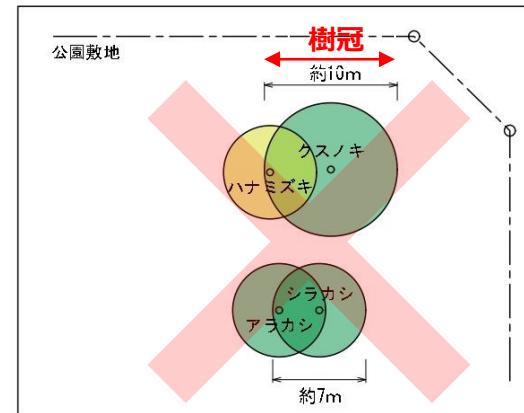
樹木の管理目標 <公園樹>

市民生活を支える都市インフラとして安全性を確保しつつ、樹木のもつ機能・効用を最大限に発揮できるように、**道路、公園など植栽環境に応じた健全で活力ある樹木を保全育成**

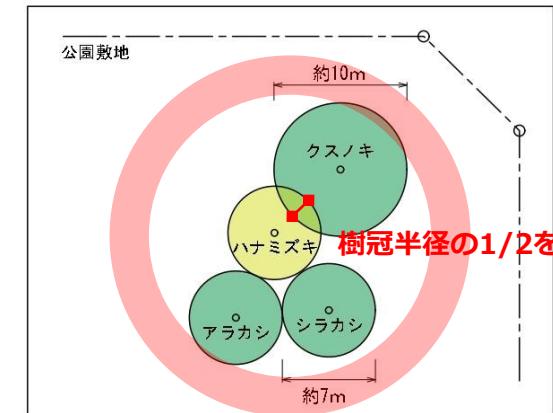
① 樹木の植栽 植栽環境に応じた、適正な樹木の配置や樹種の選定！



道路境界から
3m離す



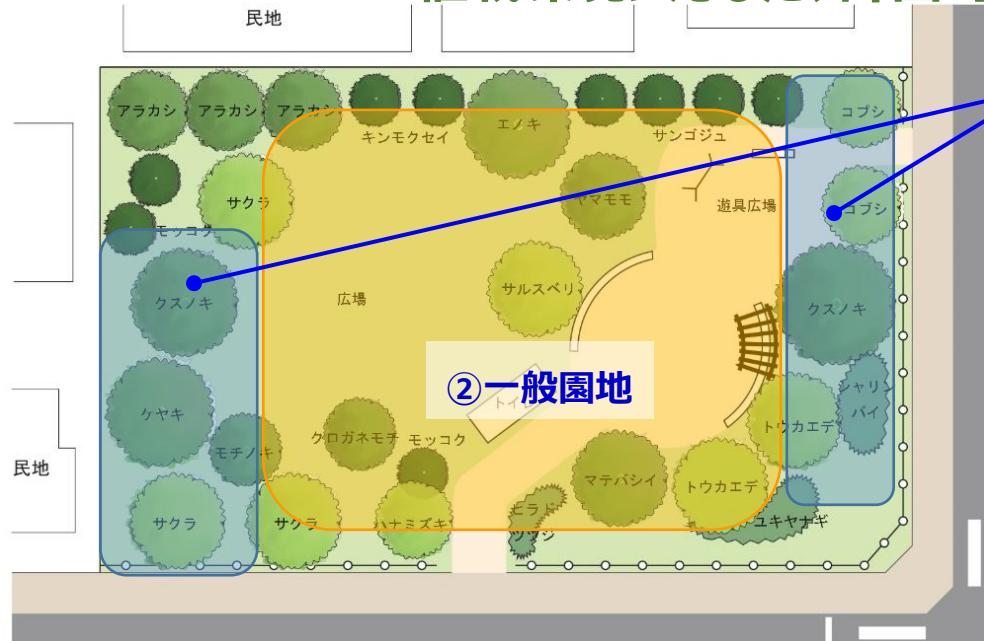
望ましくない配植間隔例



望ましい配植間隔例

植栽配置イメージ図

② 樹木の剪定 植栽環境に応じた、計画的な剪定の実施！



①外周植栽
(民地、道路沿い)

②一般園地

本市公園の空間構成や周辺状況、植栽されている樹種を踏まえ、**樹木の植栽箇所別（2区分）**で、**健全な樹木の育成**に必要な、**剪定頻度を整理**

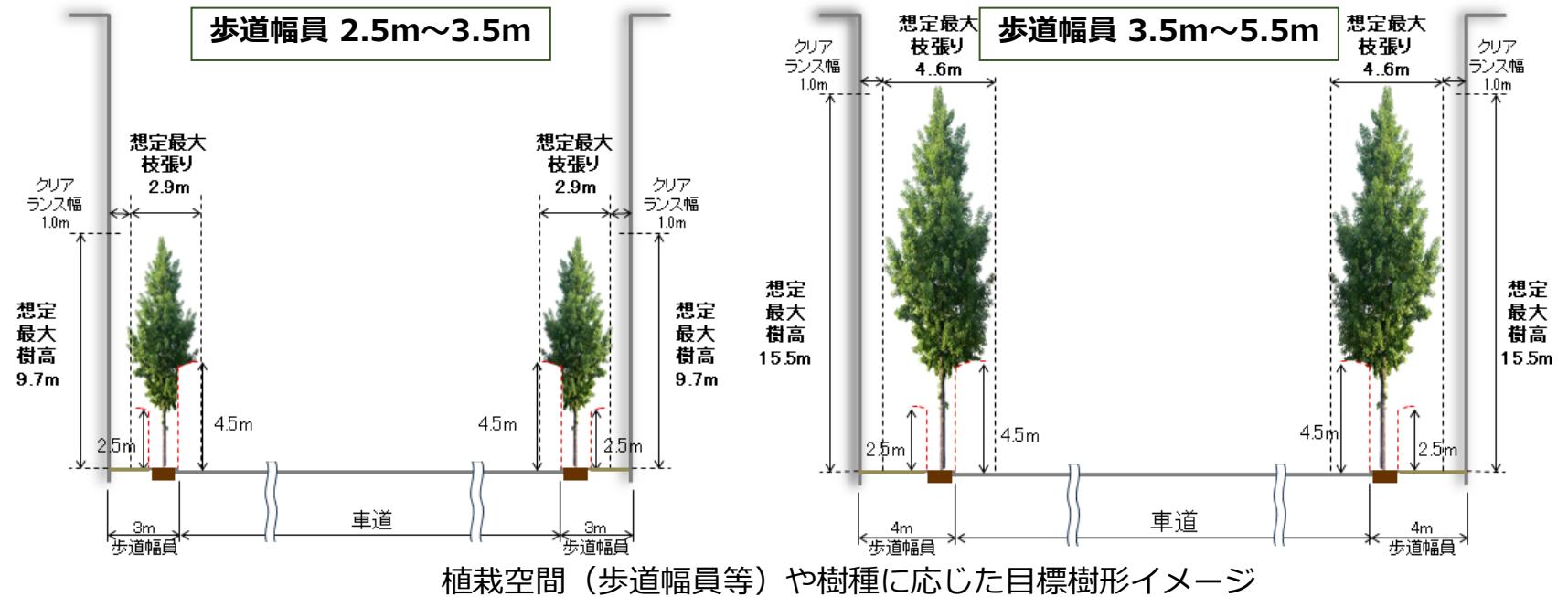
植栽箇所別 2区分イメージ図

3 今後の街路樹・公園樹の維持管理の基本的な考え方（素案）

【今後の取組方針1】 計画的な維持管理による健全な樹木の保全育成

● 植栽環境に応じた樹木管理

- 各路線や公園の植栽環境に応じて、**目標樹形・樹高にコントロール**
- 強めの剪定とならないよう、**適切な頻度で定期的に剪定（骨格剪定）**



● 樹木の計画的な更新と配置等の適正化

- 将来を見据え**計画的に樹木更新**を実施し、**更新時には配置を適正化**

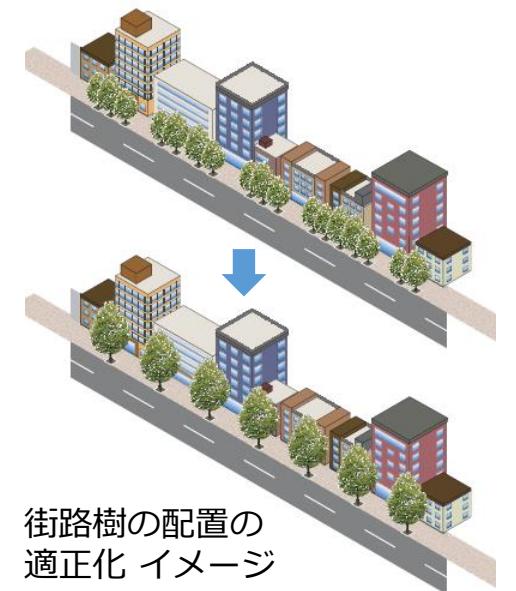


● 着実なPDCAサイクルによる持続的な管理

- 定期的に点検調査し、蓄積したデータ**に基づく効率的・効果的な維持管理
- 継続的な評価と検証により、柔軟に管理方法の見直しを行う**順応的管理**を適用

● 地域との連携推進

- 地域住民や事業者が樹木の維持管理にかかわる取組の充実
- みどりへの興味、関心を高めるための、みどりの情報の共有・発信



3 今後の街路樹・公園樹の維持管理の基本的な考え方（素案）

【今後の取組方針2】 美しい樹形と豊かな緑陰を形成し、都市の景観や快適性を向上

●大阪の顔となるエリアや路線、地域の顔となる公園

- 景観計画で定める路線や緑化重点地区などの、

大阪の顔となるエリアや路線

大阪を訪れる人が、美しいまちと実感

(参考) 上記に関連する他計画等での路線の位置づけ

- ✓本市景観計画で定める重点届出区域
- ✓緑の基本計画で定める緑化重点地区
- ✓万博関連事業実施エリア



大阪市景観計画（令和6年4月施行）



- 都市基幹公園や、地区公園、近隣公園など、

地域の顔となる公園

住む人が大阪の良さ、身近な緑を実感できる

(参考) 種別ごとの公園配置

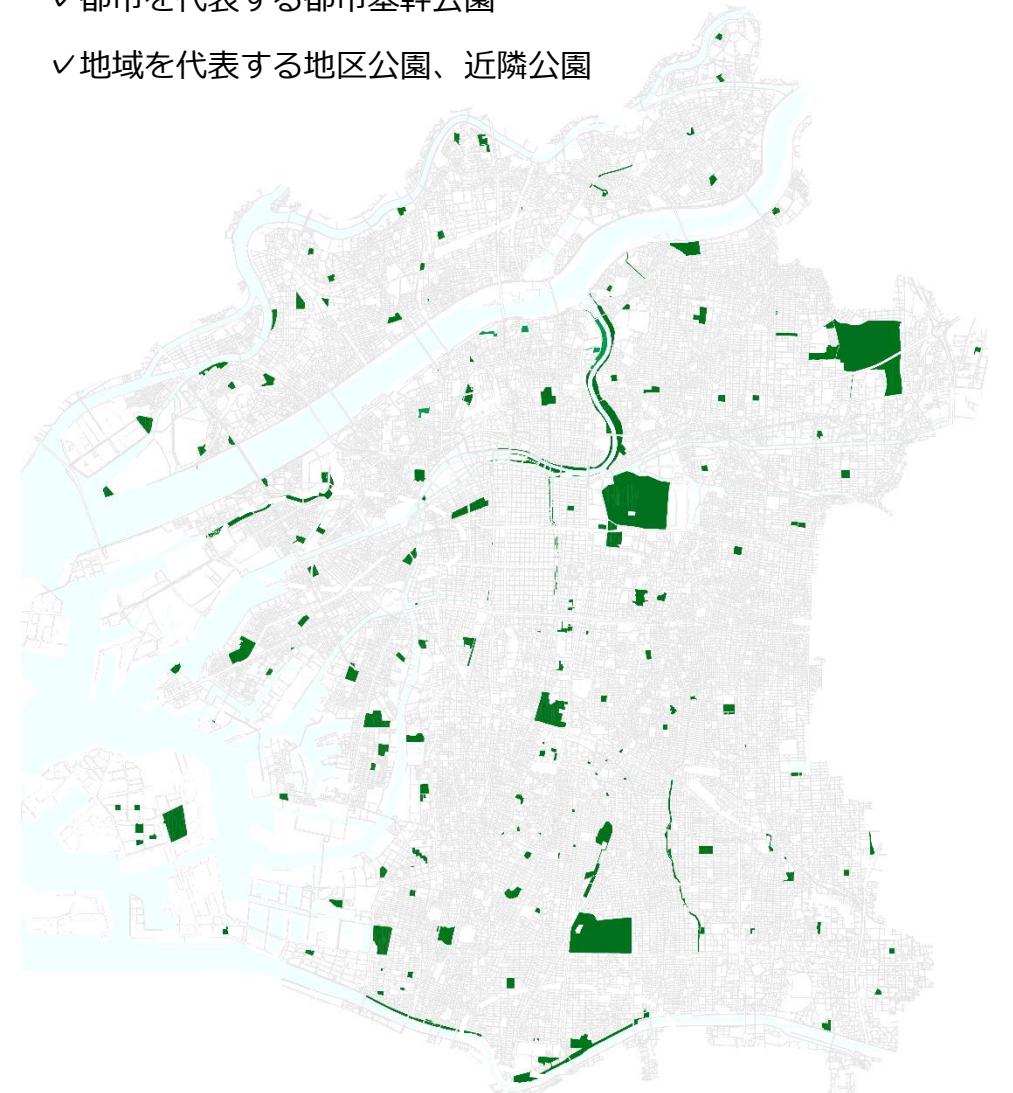
- ✓都市を代表する都市基幹公園
- ✓地域を代表する地区公園、近隣公園



新・大阪市みどりの基本計画（平成25年）



万博関連事業実施エリア



3 今後の街路樹・公園樹の維持管理の基本的な考え方（素案）

【今後の取組方針2】 美しい樹形と豊かな緑陰を形成し、都市の景観や快適性を向上

● 美しい樹形と豊かな緑陰の形成

- 美しい樹木と豊かな緑陰の形成を目指した目標樹形と目標樹高の設定
- 骨格剪定に加え、不要枝剪定を実施
- 枝葉を透かし適度な緑量を維持し、景観向上や快適に過ごすことができる美しい樹形と豊かな緑陰を形成

(参考) 美しい樹形と豊かな緑陰の形成における取組イメージ



街路樹イメージ



公園樹イメージ

- 不要枝剪定
・ 内部の枝葉を透かし
適度な緑量を維持



【美しい樹形】
枝葉の背景に、空も
眺望できる整った樹形

【豊かな緑陰】
明るく、心地よい
木漏れ日の創出

4 今後の街路樹・公園樹の維持管理の枠組み

緑の基本計画 ※全体構成（案）

✓ 樹木管理の考え方や概要を「緑の基本計画」に記載



✓ 樹木管理にかかる取組内容の詳細は、「街路樹・公園樹マネジメント戦略」に記載

街路樹・公園樹マネジメント戦略

街路樹・公園樹の総合的・計画的な管理を推進するための具体的な戦略を定めたもの

《本戦略に記載する具体的な内容》

- ① 樹形及び管理水準の設定
⇒路線タイプ別目標樹形の設定、段階的な樹形の適正化、管理水準設定等
- ② 樹木の計画的な更新及び配置の適正化
⇒樹木の整備基準の設定、樹木の計画的な更新等
- ③ PDCAによる持続的な維持管理（樹木管理DX）
⇒定期的な点検、健全度調査のデータに基づく管理 等
- ④ 多様な主体との連携と情報発信（樹木管理DX）
⇒市民へのわかりやすい情報発信、樹木の魅力や価値の見える化 等